11.9 植物

調査区域には重要な種及び群落が分布し、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る重要な種及び群落への影響が考えられるため、調査、予測及び評価を行いました。

11.9.1 工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る植物

1) 調査

(1) 調査の手法

① 調査した情報

調査項目は以下のとおりとしました。

・植物相及び植生の状況

・重要な種・群落の状況

(1)重要な種・群落の生態

(2)重要な種・群落の分布及び生育の状況

(3)重要な種・群落の生育環境の状況

② 調査の基本的な手法

調査は、既存資料調査及び現地調査により行いました。現地調査は以下の方法により行いました。

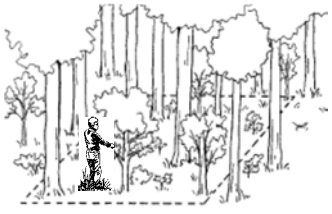
i) 植物相及び植生の状況

現地踏査において、個体の目視、必要に応じ個体の採取による方法としました。

植物相及び植生の状況の調査手法は、表 11.9-1 に示すとおりです。

また、植生の状況については、調査結果を基に群落を区分し、現存植生図を作成しました。

表 11.9-1　植物相及び植生の状況の調査手法

項目	調査方法	調査手法の概略	
植物相	直接観察及び採取	調査地域を踏査して、確認されたすべての種を記録しました。 また、現地調査で種の同定に至らなかった種については、採取し、室内にて同定しました。	
植生	植生調査 (植物社会学的調査)	調査地域の相観的な植物群落ごとに、方形枠を数箇所設定して、枠内の植物種の出現状況(被度・群度)、階層構造、優占種等を植生調査票に記録しました。	

ii) 重要な種・群落の状況

A) 重要な種・群落の分布及び生育の状況

重要な種・群落の分布及び生育の状況については、表 11.9-2 及び表 11.9-3 に示す選定基準に該当する種を対象に、「 i) 植物相及び植生の状況」の調査と併せて行いました。

B) 重要な種・群落の生育環境の状況

現地踏査において、調査地域の微地形、水系の種類及び分布を目視確認する方法としました。

表 11.9-2(1) 重要な種の選定基準

項目	法律及び文献		選定基準及びランク
植物種	Ⅰ	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	特別：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物 県：県指定天然記念物 市：市指定天然記念物 町：町指定天然記念物
	Ⅱ	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特一：特定第一種国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
	Ⅲ	「第 5 次レッドリスト(植物・菌類)の公表について」(令和 7 年 3 月、環境省)	EX：我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 EW：野生絶滅(飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) CR：絶滅危惧ⅠA 類(深刻な絶滅の危機に瀕している種) EN：絶滅危惧ⅠB 類(絶滅の危機に瀕している種) VU：絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種) NT：準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種) DD：情報不足(カテゴリーを判定するための情報が不足している種) LP：絶滅のおそれのある地域個体群(孤立した地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
	Ⅳ	「兵庫県版レッドデータブック 2020(植物・植物群落)」ひょうごの環境ホームページ(令和 7 年 3 月現在)	EX：絶滅(兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生育していたと考えられるが、兵庫県では近年、現存が確認できなかった種) EW：野生絶滅(飼育・栽培下又は自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種) A：A ランク(兵庫県内において絶滅の危機に瀕しており、緊急の保全対策、厳重な保全対策の必要な種) B：B ランク(兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生育環境、自生地などの保全が必要な種) C：C ランク(兵庫県内において存続基盤が脆弱な種) 調：要調査種(兵庫県での生育の実態について、近年の分布情報の不足や分類学的再検討が必要なため現時点では評価できないが、今後の調査によってはレッドリスト掲載となる可能性のある種)

表 11.9-2(2)　重要な種の選定基準

項目	法律及び文献		選定基準及びランク
植物種	V	「神戸の希少な野生動植物　神戸版レッドデータ 2020」(令和3年3月、神戸市)	今：今見られない(神戸市内での確認記録、標本があるなど、かつては生息・生育していたと考えられるが、現在は見られなくなり、生息・生育の可能性がないと考えられる種) A：Aランク(神戸市内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策が必要な種) B：Bランク(神戸市内において絶滅の危機が増大している種など、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種) C：Cランク(神戸市内において存続基盤が脆弱な種。極力、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種) 調：要調査(神戸市内での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種)
	Ⅵ	「明石市の大切にしたい生きもの　明石市レッドリスト」(平成 31 年3月、明石市)	今：今見られない(明石市に以前生息・生育していたが現在見られない種) A：A ランク(明石市内において生息・生育数が特に少ない種、または生息・生育環境の悪化が著しい種などで、特に生息・生育環境の保全に努めるべき種) B：Bランク(明石市内において生息・生育数が少ない種、近年減少している種、または優れた自然環境の指標となる種などで、生息・生育環境の保全に努めるべき種) 調：要調査(知見が不十分で判断が困難な種)

表 11.9-3(1)　重要な群落の選定基準

項目	法律及び文献		選定基準及びランク
天然記念物	Ⅰ	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	特別：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物 県：県指定天然記念物 市：市指定天然記念物 町：町指定天然記念物
植物群落	Ⅱ	「第 2 回自然環境保全基礎調査(特定植物群落調査)」(昭和 56 年、環境庁) 「第 3 回自然環境保全基礎調査(特定植物群落調査)」(昭和 63 年、環境庁) 「第 5 回自然環境保全基礎調査(特定植物群落調査)」(平成 12 年、環境庁)	A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群 C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地にみられる植物群落又は個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入ってないもの G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群 H：その他学術上重要な植物群落又は個体群

表 11.9-3(2)　重要な群落の選定基準

項目	法律及び文献		選定基準及びランク
植物群落	Ⅲ	「兵庫県版レッドデータブック 2020(植物・植物群落)」ひょうごの環境ホームページ(令和 7 年 3 月現在)	A：A ランク(植物群落及び個体群の破壊・衰退要因となる人為的影響、生育環境の変化、生物被害等により消滅の危機に瀕しているものや、規模的、質的に優れており貴重性の程度が最も高いもの) B：B ランク(A ランクに準ずるもので、消滅の危険性が増大しているものや、貴重性の程度が高いもの) C：C ランク(B ランクに準ずるものであり、今後消滅の危険性が高まるおそれのあるものや、貴重性の程度がやや高いもの) 注：要注目(消滅のおそれのあるものや貴重なものに準ずるものとして保全に配慮すべきもの)
	Ⅳ	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8 年 4 月、(財)日本自然保護協会・(財)世界自然保護基金日本委員会)	保護上重要な植物群落
巨樹・巨木林	Ⅱ	「第 6 回自然環境保全基礎調査(巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書)」(平成 13 年、環境省)	巨樹・巨木林
保存樹・保護樹木	Ⅴ	「明石市の保護樹木・樹林一覧」(令和 7 年 3 月ヒアリング情報、明石市) 「稲美町指定文化財」稲美町ホームページ(令和 7 年 3 月現在) 「町内の指定文化財・登録文化財一覧」播磨町ホームページ(令和 7 年 3 月現在) 「高砂市指定保存樹一覧」(令和 7 年 3 月ヒアリング情報、高砂市) 「自然環境の保全」姫路市ホームページ（令和 7 年 3 月現在) 「太子町の文化財一覧」太子町ホームページ(令和 7 年 3 月現在)	保存樹・保護樹木
郷土記念物、環境緑地保全地域	Ⅵ	「環境の保全と創造に関する条例」(平成 7 年兵庫県条例第 28 号)	郷土記念物、環境緑地保全地域

③ 調査地域

調査地域は、都市計画対象道路事業実施区域およびその周辺としました。そのうち、現地調査を行う地域は、方法書段階の都市計画対象道路事業実施区域及びその端部から 100m 程度を目安としました。調査地域は図 11.9-1 に示すとおりです。

④ 調査地点

調査ルートは図 11.9-1、植生調査地点は図 11.9-2 に示すとおりです。

i) 植物相及び植生の状況

調査地点及び調査ルートは、調査地域に生育する植物及び植生を確認しやすい場所に設定しました。

ii) 重要な種・群落の状況

調査地点及び調査ルートは、重要な種・群落の生態を踏まえ、調査地域において、それらが生育する可能性が高い場所に設定しました。

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート(直接観察) —— 春季 —— 夏季 —— 秋季
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

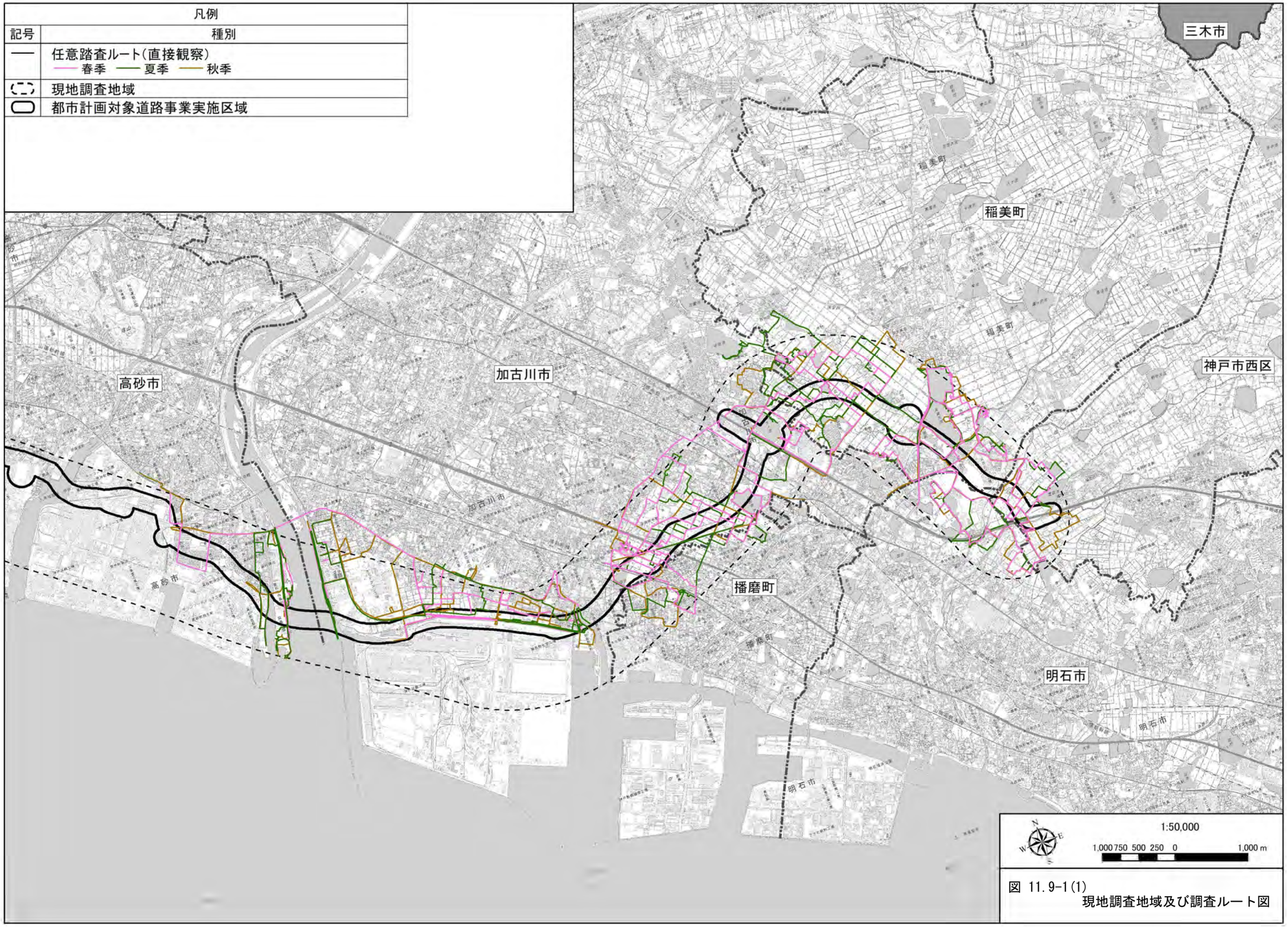


図 11.9-1(1)
現地調査地域及び調査ルート図

凡例	
記号	種別
——	任意踏査ルート(直接観察) 春季 夏季 秋季
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

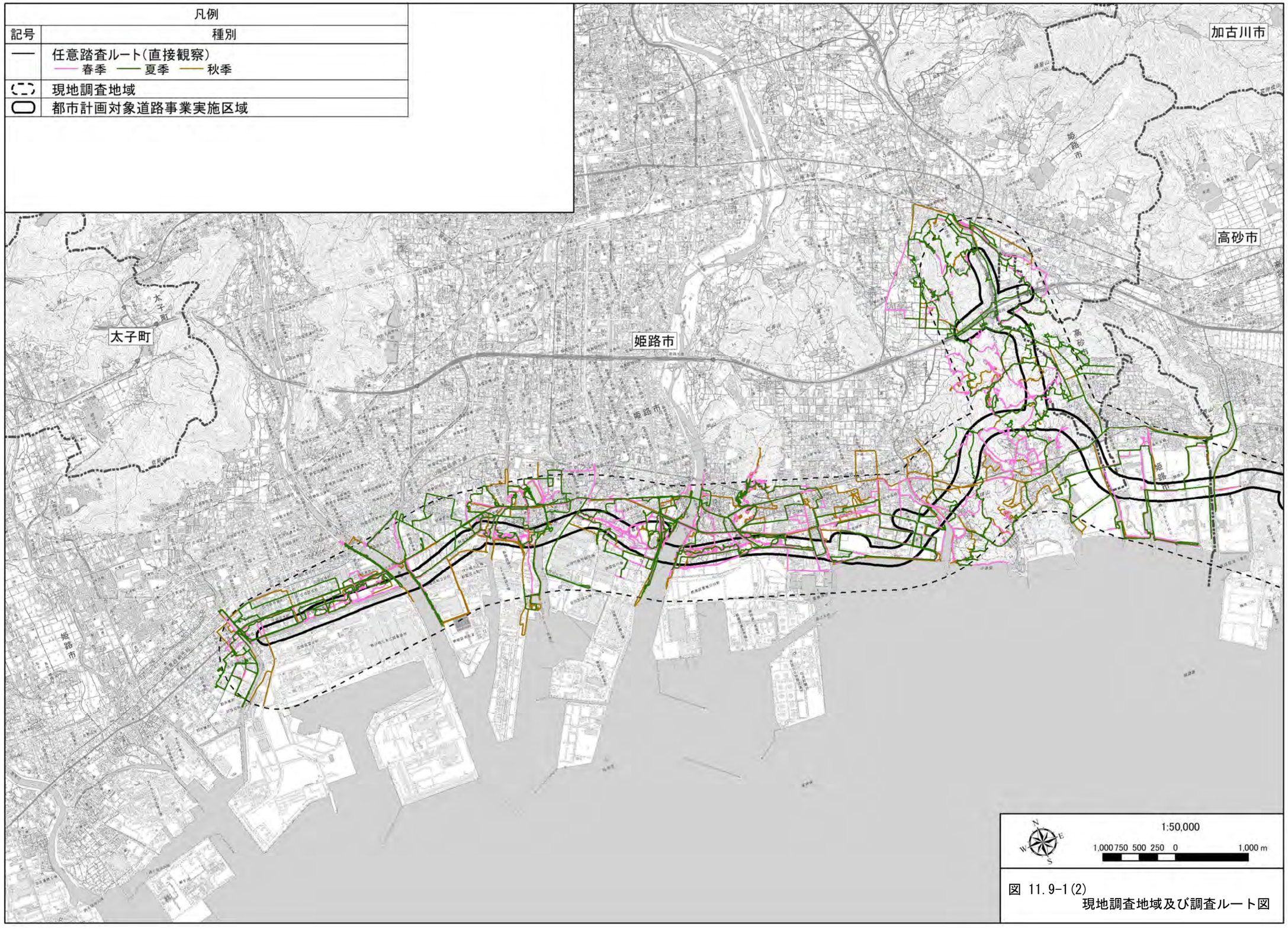


図 11.9-1(2)
現地調査地域及び調査ルート図

凡例	
記号	種別
●	植生調査地点
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

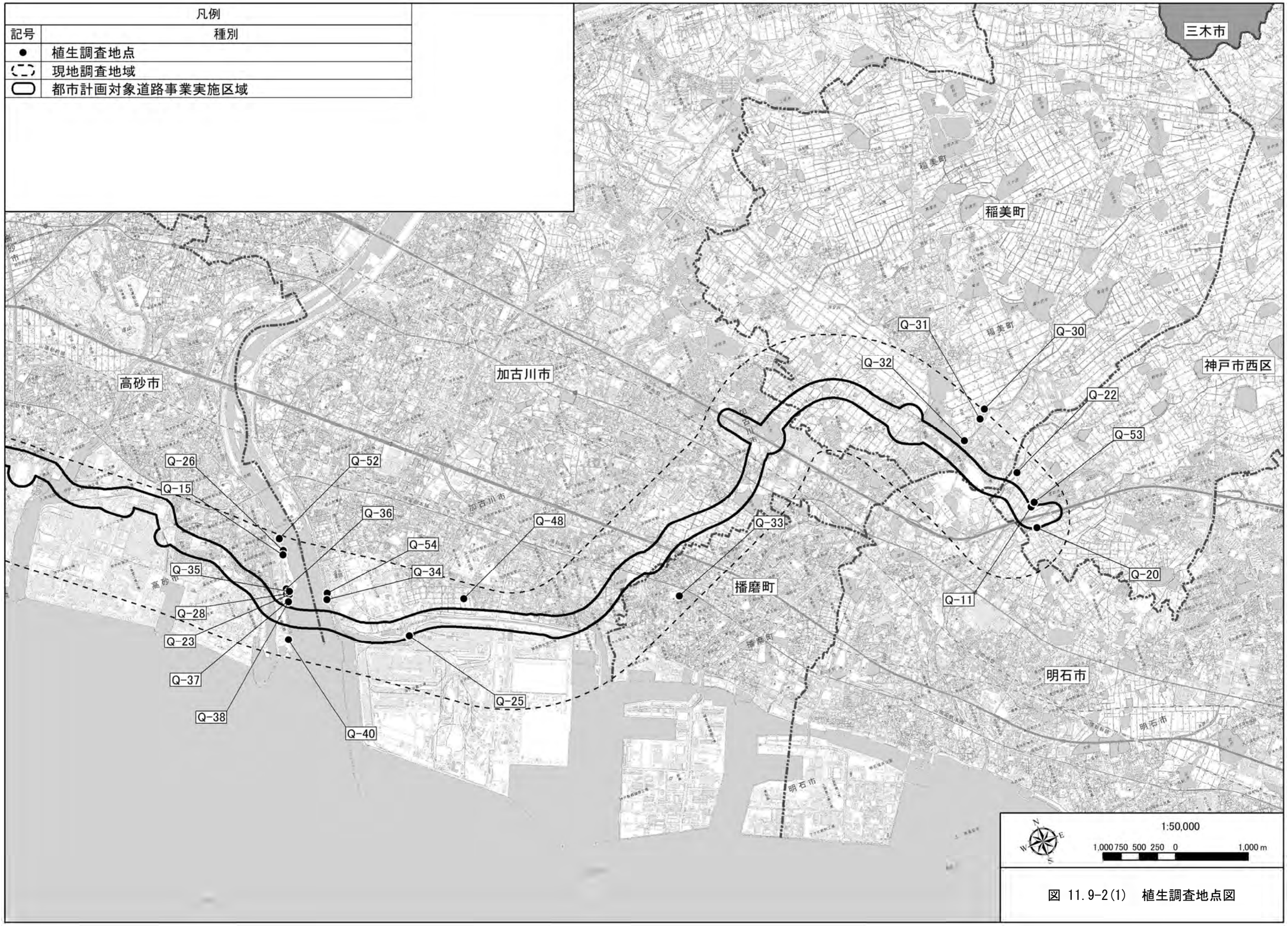


図 11.9-2(1)　植生調査地点図

凡例	
記号	種別
●	植生調査地点
⬚	現地調査地域
▭	都市計画対象道路事業実施区域

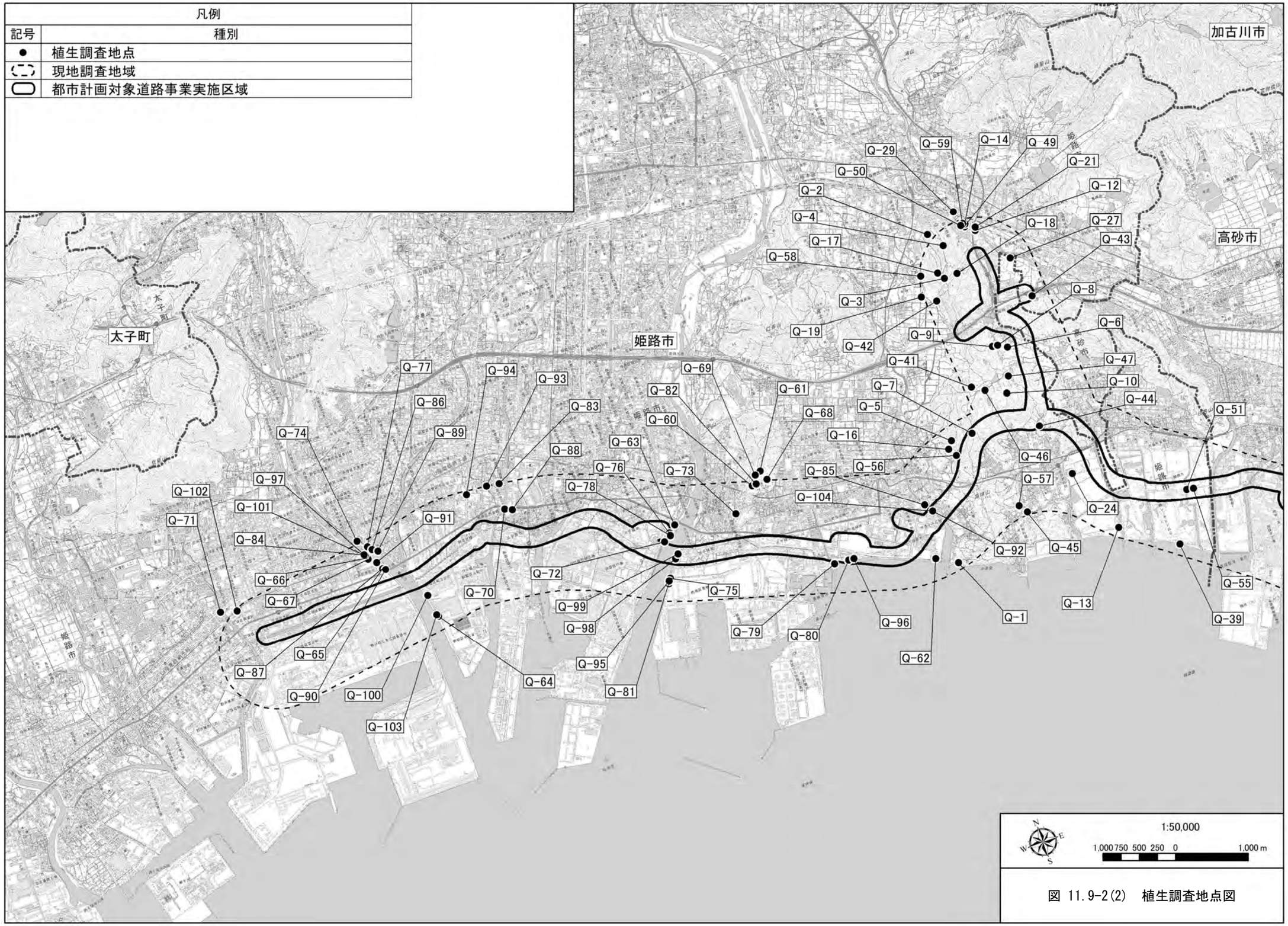


図 11.9-2(2)　植生調査地点図

⑤ 調査期間等

i) 植物相及び植生の状況

調査期間等は、1 年間を基本とし、調査地域に生育する植物を確認しやすい時期・時間帯としました。植物相の状況は春夏秋の 3 季、植生の状況は秋に 1 回実施することを基本としました。調査期間等は、表 11.9-4 に示すとおりです。

表 11.9-4　調査期間等

項目	調査実施時期
植物相の状況 重要な種・群落の状況	春季：令和 3 年 4 月 19～23 日、5 月 16 日、20 日 夏季：令和 3 年 7 月 26～30 日 秋季：令和 2 年 10 月 8～9 日、10 月 12～15 日、11 月 12 日、12 月 7 日
植生の状況	秋季：令和 2 年 11 月 9～12 日

ii) 重要な種・群落の状況

調査期間等は、重要な種・群落の生態を踏まえ、その生育の状況を確認しやすい時期・時間帯としました。調査期間等は、表 11.9-4 に示すとおりです。

(2) 調査結果

① 植物相及び植生の状況

i) 既存資料調査

調査区域における植物相の状況は、「第 4 章 4.1 自然的状況」に示すとおりです。

ii) 現地調査

A) 植物相の状況

現地調査の結果、表 11.9-5 に示すとおり、シダ植物 19 科 63 種、裸子植物 6 科 17 種、双子葉植物 108 科 724 種、単子葉植物 26 科 256 種の計 159 科 1,060 種が確認されました。

表 11.9-5　植物相の状況の現地調査結果

分類			確認種	
			科数	種数
シダ植物			19	63
種子植物			140	997
	裸子植物		6	17
	被子植物		134	980
		双子葉植物	108	724
		単子葉植物	26	256
合　　計			159 科	1,060 種

B) 植生の状況

現地調査の結果、表 11.9-6 に示すとおり、47 の植物群落及び 12 の土地利用が確認されました。現存植生図は、図 11.9-3 に示すとおりです。

表 11.9-6　植生の状況の現地調査結果

植生大区分	植物群落及び土地利用	面積(ha)	割合
常緑広葉樹二次林	ウバメガシ二次林	18.07	0.2726%
	クスノキ群落	19.41	0.2929%
	シイ－カシ二次林	49.27	0.7432%
	カクレミノ群落	3.35	0.0505%
落葉広葉樹二次林	コナラ－アベマキ群集	229.14	3.4566%
	エノキ－ムクノキ群集	0.48	0.0072%
	ヤナギ高木林	0.25	0.0038%
常緑針葉樹二次林	アカマツ－モチツツジ群集	52.16	0.7869%
植林地	ハリエンジュ群落	1.53	0.0231%
	ニワウルシ群落(高木)	0.24	0.0036%
	ニワウルシ群落(低木)	0.38	0.0058%
	センダン群落	0.54	0.0081%
	クロマツ植林	5.64	0.0850%
竹林	マダケ－ハチク植林	72.05	1.0868%
	モウソウチク植林	23.57	0.3556%
低木群落	アカメガシワ群落	9.57	0.1444%
	ヤナギ低木林	0.09	0.0014%
その他草地群落	セイタカアワダチソウ群落	26.96	0.4066%
	クズ群落	22.59	0.3408%
	コウライシバ群落	5.23	0.0789%
	メヒシバ群落	7.24	0.1092%
	セイバンモロコシ群落	5.76	0.0868%
	コセンダングサ群落	0.81	0.0122%
	ネザサ群落	8.22	0.1241%
	ススキ群落	2.21	0.0334%
	イヌビエ群落	0.19	0.0029%
	ギシギシ群落	0.04	0.0006%
	ギョウギシバ群落	0.05	0.0008%
耕作地(土地利用)	畑地	77.13	1.1635%
	水田	555.35	8.3775%
砂丘植生	ハマゴウ群落	0.66	0.0099%
	コウボウシバ群落	0.45	0.0069%
	ハマヒルガオ群落	0.19	0.0028%
	ハマスゲ群落	0.14	0.0021%
塩沼地植生	アイアシ群落	1.92	0.0290%
	シオクグ群落	0.02	0.0003%
	ナガミノオニシバ群落	0.21	0.0031%
	ホソバハマアカザ群落	0.07	0.0011%
湿地・河川・池沼植生	オオカナダモ群落	0.42	0.0063%
	ヨシ群落	12.54	0.1892%
	ホテイアオイ群落	0.49	0.0074%
	ヤナギタデ群落	3.78	0.0570%
	セイタカヨシ群落	1.45	0.0219%
	ツルヨシ群落	1.08	0.0163%
	オギ群落	0.37	0.0056%
	ヒルムシロクラス	1.36	0.0205%
	アサザ群落	0.53	0.0081%
	ナガエツルノゲイトウ群落	0.19	0.0029%
	マコモ群落	0.49	0.0074%
ゴルフ場・芝地 (土地利用)	ゴルフ場・芝地	71.01	1.0712%
市街地等(土地利用)	緑地・公園等	196.00	2.9566%
	市街地・住宅地	2,094.96	31.6023%
	工場地帯	1,925.95	29.0528%
	造成地	57.05	0.8606%
	道路	190.10	2.8676%
	自然裸地	15.02	0.2266%
	その他構造物(ソーラーパネル等)	111.22	1.6777%
開放水面(土地利用)	開放水域	653.17	9.8530%
	開放水域(ため池)	90.77	1.3692%
合計	－	6,629.13	100.0000%

凡例

記号	種別	記号	種別	記号	種別
	40 常緑広葉樹二次林		54 植林地		58-2 緑地・公園等
	41 落葉広葉樹二次林		55 竹林		58-3 道路
	42 常緑針葉樹二次林		56 ゴルフ場・芝地		58-4 自然裸地
	44 低木群落		57-1 その他草地群落		58-5 開放水域
	47 湿原・河川・池沼植生		57-2 畑地		58-6 工場地帯・造成地・その他構造物
	48 塩沼地植生		57-3 水田		現地調査地域
	49 砂丘植生		58-1 市街地・住宅地		都市計画対象道路事業実施区域

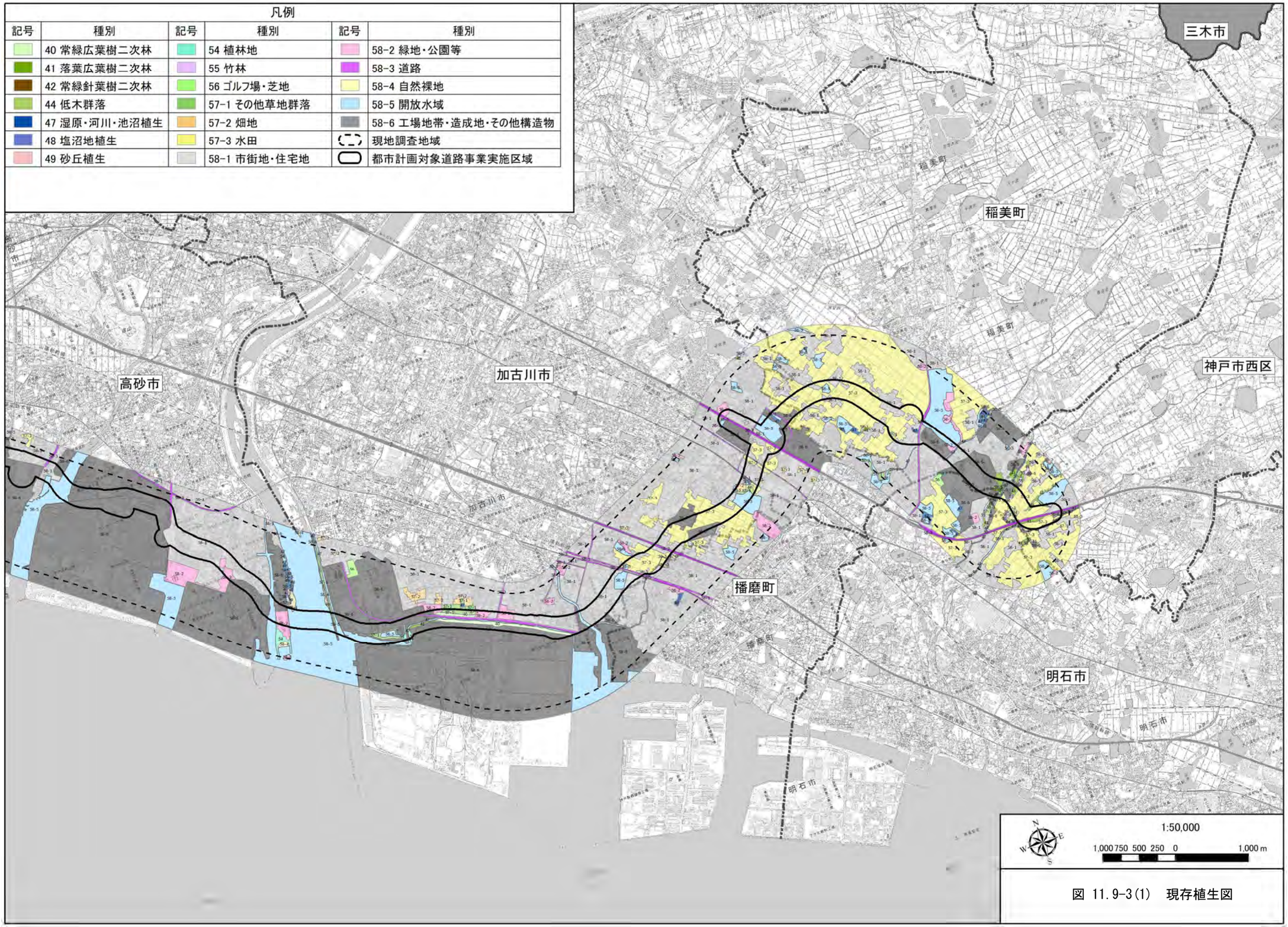


図 11.9-3(1)　現存植生図

凡例

記号	種別	記号	種別	記号	種別
	40 常緑広葉樹二次林		54 植林地		58-2 緑地・公園等
	41 落葉広葉樹二次林		55 竹林		58-3 道路
	42 常緑針葉樹二次林		56 ゴルフ場・芝地		58-4 自然裸地
	44 低木群落		57-1 その他草地群落		58-5 開放水域
	47 湿原・河川・池沼植生		57-2 畑地		58-6 工場地帯・造成地・その他構造物
	48 塩沼地植生		57-3 水田		現地調査地域
	49 砂丘植生		58-1 市街地・住宅地		都市計画対象道路事業実施区域

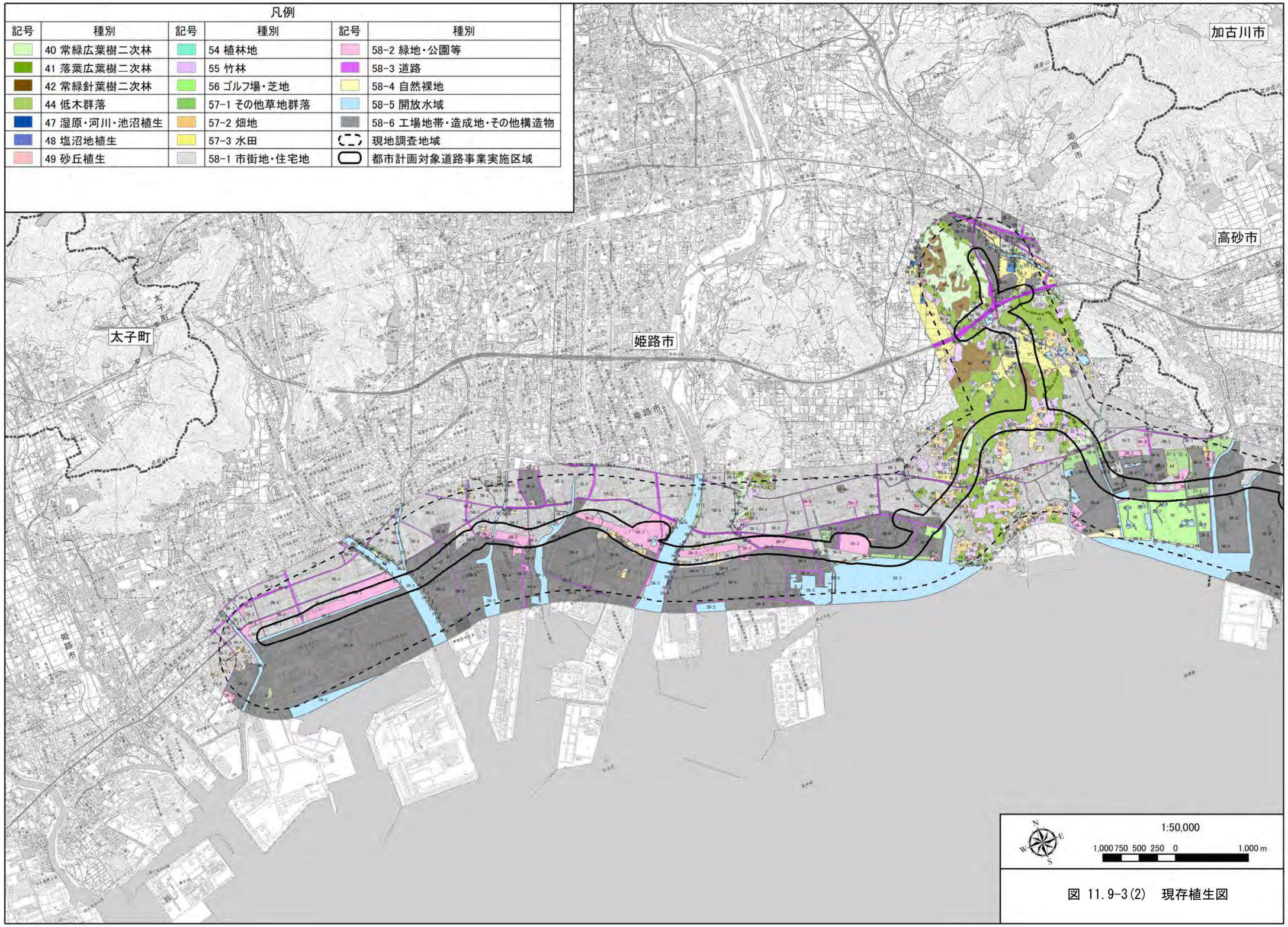


図 11.9-3(2)　現存植生図

② 重要な種・群落の状況

重要な種は、表 11.9-7 に示すとおり、既存資料調査及び現地調査により 129 科 672 種が確認されました。

重要な群落は、表 11.9-8 に示すとおり、天然記念物 1 箇所、重要な植物群落 5 箇所、巨樹・巨木林 3 箇所、保存樹・保護樹木 15 箇所(指定の重複あり)が確認されました。

なお、重要な種・群落の位置は保護上の観点から分布表示はしません。

表 11.9-7(1) 重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
1	ヒカゲノカズラ	ミズスギ				C	B	B	○	
2		ヤチスギラン				EX	今		○	
3		マンネンスギ				B	今		○	
4	イワヒバ	イヌカタヒバ			VU				○	
5		タチクラマゴケ				B			○	
6	ミズニラ	ミズニラ			NT	C	A		○	
7	ハナヤスリ	アカハナワラビ				B	A		○	
8		ナツノハナワラビ					B		○	
9		コヒロハハナヤスリ					C	A	○	○
10		コハナヤスリ					B		○	
11		ハマハナヤスリ				B		今	○	
12		ヒロハハナヤスリ				B	A		○	
13	マツバラン	マツバラン			NT	B	A		○	
14	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ				B	A		○	
15		ヤマドリゼンマイ				C	B		○	
16	コケシノブ	アオホラゴケ					B		○	
17		ヒメコケシノブ				A	A		○	
18		コハイホラゴケ					B		○	
19	デンジソウ	デンジソウ			NT	A	A	A	○	
20	サンショウモ	サンショウモ			NT	A	A	A	○	
21	コバノイシカグマ	オウレンシダ				B	C		○	
22		イシカグマ				C	B		○	
23	イノモトソウ	ハコネシダ					C		○	
24		ヒメミズワラビ				C	C	B	○	○
25		シシラン					A		○	
26		アマクサシダ					B		○	
27		ナチシダ				B			○	
28	ナヨシダ	エビラシダ				A	A		○	
29	チャセンシダ	カミガモシダ					A		○	
30		オクタマシダ			VU	A	A		○	
31		コウザキシダ				C	A		○	
32		クモノスシダ				B			○	
33		コタニワタリ					B		○	
34		イワトラノオ					C		○	
35		イヌチャセンシダ				C	B		○	
36		クルマシダ				A	A		○	
37		ホウビシダ					A		○	

注) 選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(2)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
38	ヒメシダ	イワハリガネワラビ					C	調	○	
39	イワデンダ	フクロシダ				C	A		○	
40	シシガシラ	オサシダ					C		○	
41	メシダ	ウラボシノコギリシダ					A		○	
42		ハコネシケチシダ				C	C		○	
43		ミヤコイヌワラビ				C			○	
44		ルリデライヌワラビ				B			○	
45		ムクゲシケシダ					B		○	
46		ナチシケシダ					C	調	○	
47		ミヤマシケシダ（狭義）				B	B		○	
48		ヒカゲワラビ				B	A		○	
49		ウスバミヤマノコギリシダ				B			○	
50		シロヤマシダ				C			○	
51		ミヤマノコギリシダ					A		○	
52		ノコギリシダ					C		○	
53	オシダ	オオカナワラビ					A		○	
54		ヒロハヤブソテツ				B			○	
55		ミヤコヤブソテツ				C	C		○	
56		イワヘゴ					B		○	
57		ツクシイワヘゴ					調		○	
58		オシダ					A		○	
59		ギフベニシダ					B		○	
60		アツギノヌカイタチシダマガイ				A	A		○	
61		ミヤマクマワラビ				C	B		○	
62		イワイタチシダ					B		○	
63		ナガバノイタチシダ				B	B		○	
64		タニヘゴ					今		○	
65		チャボイノデ				A	A		○	
66		カタイノデ					B		○	
67		ネッコイノデ				調	今		○	
68	タマシダ	タマシダ				B			○	
69	シノブ	シノブ					C		○	
70	ウラボシ	アオネカズラ				C	今		○	
71		ヌカボシクリハラン				A			○	
72		ミヤマノキシノブ				C	今		○	
73		イワヤナギシダ				C			○	
74		オオクボシダ				A	A		○	
75		クリハラン				C	B		○	
76		カラクサシダ					B		○	
77		ビロードシダ					B		○	
78		タカノハウラボシ				A	A		○	
79	マツ	ゴヨウマツ				C			○	
80	ジュンサイ	ジュンサイ						今	○	
81	スイレン	オニバス			VU	B	A	A	○	
82		コウホネ				A			○	
83		サイコクヒメコウホネ				C	B		○	
84		ヒツジグサ					C	今	○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(3)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
85	センリョウ	キビヒトリシズカ			VU	B			○	
86		ヒトリシズカ					C		○	
87		センリョウ				C			○	○
88	ドクダミ	ハンゲショウ				C	B	B	○	○
89	コショウ	フウトウカズラ					今		○	
90	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ				C	C	B	○	○
91		フタバアオイ				B	A		○	
92		ヒメカンアオイ					C		○	
93		ウスバサイシン				A			○	
94	モクレン	オガタマノキ				B	A		○	
95	サトイモ	ホソバテンナンショウ				C	C		○	
96		キシダマムシグサ				C	C		○	
97		ハリママムシグサ			EN	B	B		○	
98		アオオニテンナンショウ					調		○	
99		ムサシアブミ				B	B		○	
100		セッピコテンナンショウ		特一	CR	A			○	
101		ユキモチソウ			NT	A	A		○	
102		オオハンゲ				C			○	
103	チシマゼキショウ	ハナゼキショウ				C			○	
104	オモダカ	ホソバヘラオモダカ			CR	A	A		○	
105		マルバオモダカ			VU	A	A	今	○	
106		アギナシ			NT	A	A		○	
107		ウリカワ						B	○	
108	トチカガミ	マルミスブタ			VU	B	A		○	
109		スブタ			VU	C	A		○	
110		ヤナギスブタ				C	C		○	
111		クロモ				C			○	
112		トチカガミ			NT	EX	今	今	○	
113		ムサシモ			EN	A	今		○	
114		ヒロハトリゲモ			NT	B	B		○	
115		イトトリゲモ			NT	C	C		○	
116		ホッスモ						B	○	○
117		イバラモ				A	A		○	
118		トリゲモ			VU	A	調		○	
119		オオトリゲモ					C		○	
120		ミズオオバコ			NT	C	C	A	○	
121		セキショウモ				B	B		○	
122	ヒルムシロ	イトモ			NT	B	B		○	○
123		コバノヒルムシロ			VU	B	B		○	
124		ヒルムシロ						B	○	
125		オオミズヒキモ				A			○	
126		オヒルムシロ				A			○	
127		ヒロハノエビモ				A			○	
128		ツツイトモ			VU				○	
129		ササバモ				B	調		○	
130	カワツルモ	カワツルモ			NT	A			○	
131	ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ				B	A		○	
132		コウベタヌキノショクダイ			CR	EX	今		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(4)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
133	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ			NT	B	A		○	
134		ウエマツソウ			VU	A	A		○	
135	シュロソウ	ホソバシュロソウ				B	今		○	
136	サルトリイバラ	ヤマカシュウ					B		○	
137	ユリ	カタクリ				C	今		○	
138		ミノコバイモ			VU	A	今		○	
139		キバナノアマナ				B			○	
140		ヒメユリ			EN	EX	今		○	
141		コオニユリ					B		○	
142		アマナ					B		○	
143	ラン	ヒナラン			VU	B	A		○	
144		シラン			NT	調			○	
145		マメヅタラン			NT	C	A		○	
146		ムギラン			NT		C		○	
147		エビネ			NT	C	C		○	○
148		ナツエビネ			VU	B	A		○	
149		ギンラン				C	C	B	○	
150		キンラン			NT	C	B	A	○	○
151		ササバギンラン				B	A		○	
152		クゲヌマラン			VU	調	調		○	○
153		トケンラン			VU	A	A		○	
154		サイハイラン					C		○	
155		シュンラン						B	○	○
156		マヤラン			VU	A	A		○	
157		クマガイソウ			VU	B			○	
158		セッコク				A	A		○	
159		カキラン				C	C	B	○	
160		タシロラン			NT	B	調		○	
161		アキザキヤツシロラン				A				○
162		オニノヤガラ				C	B		○	
163		シロテンマ			EN		調		○	
164		クロヤツシロラン				A	A		○	
165		アケボノシュスラン					B		○	
166		ミズトンボ			NT	C	B	A	○	
167		ムカゴソウ			VU	B	今		○	
168		ムヨウラン				B	C		○	
169		ウスキムヨウラン			NT	A	A		○	
170		エンシュウムヨウラン				A		A	○	
171		ジガバチソウ					B		○	
172		コクラン						B	○	○
173		フウラン			NT	A	A	A	○	
174		コフタバラン				A			○	
175		アオフタバラン				B	A		○	
176		ヨウラクラン				A	A		○	
177		サギソウ			NT	B	B	A	○	
178		ジンバイソウ				A	調		○	
179		ヤマサギソウ			VU	C	B		○	
180		コバノトンボソウ				C	B	A	○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(5)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
181	ラン	オオヤマサギソウ				A	調		○	
182		トキソウ			NT	C	B	A	○	
183		ヤマトキソウ				C	B		○	
184		ウチョウラン			NT	A	A		○	
185		クモラン				B	A		○	
186		カヤラン				C	A		○	
187		ヒトツボクロ				B	B		○	
188	アヤメ	ノハナショウブ				C	B		○	
189		カキツバタ			NT	B	調		○	○
190		アヤメ				調	調		○	
191	ススキノキ	ユウスゲ				C	B		○	○
192		ノカンゾウ				B	B	A	○	
193	ヒガンバナ	ヤマラッキョウ						B	○	
194	クサスギカズラ	キジカクシ					B		○	
195		カンザシギボウシ				C	C		○	
196		キヨスミギボウシ				C	B		○	
197		コバギボウシ					C		○	
198		コヤブラン				C	B	調	○	○
199		ユキザサ					B		○	
200		ノシラン				B	B	B	○	○
201	ツユクサ	ヤブミョウガ						B	○	
202	ミズアオイ	ミズアオイ			NT	A		今	○	
203	ガマ	ミクリ			NT	C	A		○	
204		ヤマトミクリ			NT	B	A		○	
205		ナガエミクリ			NT	C	B		○	
206		ヒメミクリ			VU	A	A		○	
207		コガマ				B	B		○	○
208	ホシクサ	ヒロハノイヌノヒゲ					B		○	
209		オオホシクサ					B		○	○
210		ホシクサ				C	B	今	○	
211		ヤマトホシクサ			VU	C			○	
212		ツクシクロイヌノヒゲ					C		○	
213		クロホシクサ			NT	A			○	
214	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ				C			○	
215		タマコウガイゼキショウ				B	B		○	
216		ドロイ				B			○	
217		タチコウガイゼキショウ				A	A		○	
218	カヤツリグサ	ウキヤガラ					C		○	○
219		コウキヤガラ				B			○	
220		イトテンツキ			NT	A	A		○	
221		ベニイトスゲ				C	C		○	
222		クロカワズスゲ						B	○	
223		オオナキリスゲ				C	C		○	
224		ヤマジスゲ				B	B		○	
225		コゴメスゲ					B		○	
226		ハリガネスゲ				調			○	
227		オニスゲ					C		○	
228		ウマスゲ				A	今		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(6)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
229	カヤツリグサ	コウボウムギ					B	B	○	○
230		ヒメミコシガヤ			EN	A	A		○	
231		ヤガミスゲ				A			○	
232		イソアオスゲ					B		○	
233		フサスゲ				B	B		○	○
234		アワボスゲ				A	B		○	
235		キンキカサスゲ					C		○	
236		タカネマスクサ				C	C		○	
237		マメスゲ				B	A		○	
238		オオタマツリスゲ				B	B		○	
239		サトヤマハリスゲ				C	B		○	
240		ジングウスゲ			NT	A			○	
241		アブラシバ					C		○	
242		シオクグ						調	○	○
243		センダイスゲ				B		A	○	
244		ツルミヤマカンスゲ				B	B		○	
245		フサナキリスゲ					B		○	
246		ホソバカンスゲ				B			○	
247		ヒトモトススキ					B		○	
248		ヒメアオガヤツリ				C			○	
249		ヌマガヤツリ				A	A	A	○	
250		オオシロガヤツリ					C		○	
251		シロガヤツリ				C	B		○	
252		ウキミガヤツリ				調			○	
253		カガシラ			VU	B	今	A	○	
254		ミスミイ			EN	A			○	
255		セイタカハリイ					C		○	
256		ヤリハリイ				C	C		○	
257		イヌクログワイ				B			○	
258		オオヌマハリイ				C			○	
259		アオテンツキ				C			○	○
260		ナガボテンツキ				EW			○	
261		イソヤマテンツキ				C	B		○	
262		アゼテンツキ				A			○	
263		クロタマガヤツリ				A			○	
264		ネビキグサ				B	今	A	○	
265		ミカヅキグサ				C	C	B	○	
266		トラノハナヒゲ				B	A		○	
267		オオイヌノハナヒゲ					C		○	
268		ヒメカンガレイ			VU	A	A		○	
269		タイワンヤマイ				C	C		○	
270		オオフトイ					A		○	
271		シズイ				B	A		○	
272		フトイ				調	A	B	○	
273		サンカクイ					調		○	
274		ノグサ				C	C	B	○	
275		エゾアブラガヤ					C		○	
276		コマツカサススキ						B	○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(7)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
277	カヤツリグサ	マツカサススキ				B	B		○	
278		ミカワシンジュガヤ			VU	B	B		○	
279		コシンジュガヤ					C		○	
280		マネキシンジュガヤ				C	C	B	○	
281		ケシンジュガヤ				C	C	B	○	
282	イネ	ヒロハノハネガヤ				C			○	
283		ヒメコヌカグサ			NT				○	
284		ヒロハノコヌカグサ				C	調		○	
285		コウボウ				A	今		○	
286		ダンチク					B		○	
287		コウヤザサ					C		○	
288		ホガエリガヤ					B		○	
289		ホッスガヤ				C	B		○	
290		ヒメアブラススキ					B		○	
291		チョウセンガリヤス						B	○	
292		ヒナザサ			NT		B	調	○	
293		ミズタカモジグサ			VU	A			○	
294		ヌマカゼクサ					B	B	○	
295		イトスズメガヤ				調			○	
296		コゴメカゼクサ				調			○	
297		ナルコビエ				C	B	B	○	
298		ウンヌケモドキ			NT	C	A		○	
299		ウンヌケ			VU	B			○	
300		ムツオレグサ				C			○	
301		ヒロハノドジョウツナギ				A	A		○	
302		アズマガヤ					C		○	
303		カモノハシ					C		○	○
304		イワタケソウ				B			○	
305		テンキグサ				C			○	
306		ミチシバ				調	調		○	
307		ハチジョウススキ						調	○	
308		ヌマガヤ					C		○	
309		ミヤマネズミガヤ					調		○	
310		タチネズミガヤ				C	C		○	
311		スズメノコビエ				B	B		○	
312		タキキビ				C	今		○	
313		ムカゴツヅリ				B			○	
314		ウキシバ				C	C	B	○	
315		アリマコスズ					調		○	
316		ウシクサ					C		○	
317		モロコシガヤ				B	B	A	○	
318		ヒゲシバ				A	今		○	
319		オニシバ				C			○	
320		ナガミノオニシバ				C			○	○
321	ケシ	ジロボウエンゴサク					A		○	
322		キケマン					B	B	○	
323		ナガミノツルケマン			NT	C			○	
324	ツヅラフジ	ツヅラフジ					C		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(8)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
325	メギ	サイコクイカリソウ			VU	A			○	
326		トキワイカリソウ					B		○	
327	キンポウゲ	イブキトリカブト				B	今		○	
328		タンナトリカブト				B	今		○	
329		ユキワリイチゲ					A		○	
330		イチリンソウ					A		○	
331		イヌショウマ					A		○	
332		オオバショウマ				C			○	
333		カザグルマ			NT	B	A		○	
334		キクバオウレン					C		○	
335		セツブンソウ			NT	C			○	
336		ミスミソウ			NT	B			○	
337		ケスハマソウ				B	A		○	
338		スハマソウ				B			○	
339		オキナグサ			NT	A	A		○	
340		ヒキノカサ			VU	A	今		○	
341		オトコゼリ				B	今		○	
342		シギンカラマツ				B	A		○	
343	ツゲ	フッキソウ				B	B		○	
344	ボタン	ベニバナヤマシャクヤク			VU	B			○	
345		ケナシベニバナヤマシャクヤク			VU	B	A		○	
346	マンサク	コウヤミズキ				B	A		○	
347		イスノキ						調	○	○
348	ユキノシタ	コガネネコノメソウ				C			○	
349		タチネコノメソウ					B		○	
350		チャルメルソウ					B		○	
351	ベンケイソウ	アオベンケイ				調	調		○	
352		ツメレンゲ			NT	C	C		○	
353		イワレンゲ			VU	A		A	○	
354		メノマンネングサ				C		B	○	
355		タイトゴメ				C		B	○	
356		マルバマンネングサ					B	B	○	
357		ウンゼンマンネングサ			VU	A	A		○	
358		ヒメレンゲ					B		○	
359	タコノアシ	タコノアシ			NT	C	C	B	○	
360	アリノトウグサ	オグラノフサモ			VU	A			○	
361		ハリマノフサモ					A		○	
362		タチモ			NT		C	B	○	
363		フサモ				B	A		○	
364	ハマビシ	ハマビシ			EN	EW	今	今	○	
365	マメ	ハマナタマメ				B			○	
366		フジキ					C		○	
367		タヌキマメ					B	B	○	
368		ミヤマトベラ				A	A		○	
369		サイカチ				調			○	
370		ニワフジ					調		○	
371		ハマエンドウ					C	B	○	○
372		イヌハギ			NT	C	A	A	○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(9)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
373	マメ	マキエハギ				B	A	B	○	
374		ミソナオシ				A	今	今	○	
375		ツルフジバカマ				A	A		○	
376		ヨツバハギ				A	A		○	
377		オオバクサフジ				B	B		○	
378	ヒメハギ	カキノハグサ				B	B		○	
379		ヒナノカンザシ				C	B	B	○	
380	グミ	アリマグミ				C	B		○	
381		ナツアサドリ				C			○	
382	クロウメモドキ	オオクマヤナギ				C			○	
383		ヨコグラノキ				B			○	
384		ハマナツメ			NT	調			○	
385		クロウメモドキ					C		○	
386	アサ	コバノチョウセンエノキ					C		○	
387		エゾエノキ					A		○	
388	クワ	オオイタビ				調		今	○	
389		ヒメイタビ					C		○	
390	バラ	エドヒガン				C			○	
391		クサボケ				C	A		○	
392		バクチノキ				C			○	○
393		ヒメヘビイチゴ				A			○	
394		カワラサイコ				B	調		○	
395		イワキンバイ				B	A		○	
396		ツチグリ			VU	A	A		○	
397		テリハキンバイ				B	B		○	
398		ツルキンバイ				A	A		○	
399		シロヤマブキ			EN	調			○	
400		モリイバラ				C	B		○	
401		ヤブイバラ				B			○	
402		オオバライチゴ				B			○	
403		マヤクサイチゴ					B		○	
404		バライチゴ					B		○	
405		オオフユイチゴ					調		○	
406		コジキイチゴ				C	C		○	
407		ナガボノワレモコウ				B	A	A	○	
408	ブナ	ブナ					A		○	
409		シリブカガシ				B				○
410		ナラガシワ					C		○	
411		カシワ					調		○	
412		イチイガシ				C		B	○	
413	クルミ	サワグルミ					A		○	
414	カバノキ	サクラバハンノキ			NT		B	A	○	
415		ミズメ					C		○	
416	ウリ	ゴキヅル				C	B	B	○	○
417	ニシキギ	ウメバチソウ					B		○	
418	カタバミ	エゾタチカタバミ					C		○	
419	トウダイグサ	ノウルシ			NT	B	今		○	
420		ニシキソウ				C	C		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(10)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
421	トウダイグサ	イワタイゲキ				B			○	
422		タカトウダイ				B	A		○	○
423	スミレ	ヒゴスミレ					C		○	
424		エイザンスミレ					C		○	
425		ホコバスミレ					B		○	
426		コミヤマスミレ				C			○	
427		ホソバシロスミレ			VU	A	調		○	
428		アカネスミレ					B		○	
429		シコクスミレ				A			○	
430	オトギリソウ	トモエソウ					B		○	
431		アゼオトギリ			EN	B	A	A	○	
432		トサオトギリ			CR	A			○	
433		ミズオトギリ					B		○	
434	ミソハギ	ヒメミソハギ					B	B	○	
435		エゾミソハギ				A			○	
436		ミズスギナ			CR	EX		今	○	
437		ミズマツバ			NT	C	B		○	
438		ヒメビシ			VU	A			○	
439	アカバナ	ミズユキノシタ						B	○	○
440	ミツバウツギ	ミツバウツギ					C		○	
441	ムクロジ	カジカエデ				C	A		○	
442		ヒナウチワカエデ				C	C		○	
443		ムクロジ				C	B		○	
444	アオイ	カラスノゴマ						B	○	
445		ハマボウ				A				○
446		ヘラノキ				A	A		○	
447	アブラナ	タチスズシロソウ			VU	EX	今		○	
448		オオマルバコンロンソウ			EN	B			○	
449		ミズタガラシ				B	B		○	
450		イヌナズナ					C		○	
451		コイヌガラシ			NT	C	C	B	○	○
452		ミチバタガラシ				C	B		○	
453		ハタザオ					B		○	
454	ビャクダン	ヤドリギ					C		○	
455	オオバヤドリギ	マツグミ						調	○	
456	イソマツ	ハマサジ			NT	C			○	○
457	タデ	サイコクヌカボ			NT		A	今	○	
458		ナガバノウナギツカミ			NT	B	今		○	
459		サデクサ				C	B	A	○	
460		ヌカボタデ			VU	B			○	
461		ニオイタデ				B			○	
462		コギシギシ			NT	調	調		○	○
463	モウセンゴケ	イシモチソウ			NT	C	B	B	○	○
464		モウセンゴケ					C		○	
465		コモウセンゴケ				C	A		○	
466		トウカイコモウセンゴケ					C	B	○	
467	ナデシコ	カワラナデシコ					C	B	○	○
468		ワチガイソウ				B			○	
469		オオヤマハコベ					B		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(11)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
470	ヒユ	ホソバハマアカザ				C			○	○
471		ハマアカザ				C				○
472		イソホウキギ				EX			○	
473		イワアカザ			CR	調			○	
474		オカヒジキ					C		○	○
475		ハママツナ				B			○	○
476	ハマミズナ	ツルナ					C		○	○
477	ヤマゴボウ	マルミノヤマゴボウ					B		○	
478	ミズキ	ウリノキ					C		○	
479	アジサイ	マルバウツギ					B		○	
480	サカキ	ハマヒサカキ				C				○
481	カキノキ	リュウキュウマメガキ						調	○	
482		トキワガキ				B	A		○	
483	サクラソウ	クサレダマ				B	調		○	
484		イズセンリョウ					B		○	
485		タイミンタチバナ				C	B		○	
486	ツバキ	ナツツバキ					C		○	○
487	ハイノキ	クロミノニシゴリ				A			○	
488	エゴノキ	ハクウンボク					A		○	
489	マタタビ	サルナシ					調		○	
490	ツツジ	ウメガサソウ				B	A		○	
491		サラサドウダン				B	調		○	
492		イワナシ					今		○	
493		シャクジョウソウ				C	B		○	
494		マルバノイチヤクソウ				A	今		○	
495		サツキ				A	A		○	
496		ホンシャクナゲ				C	A		○	
497		ヒカゲツツジ				C	B		○	
498		ダイセンミツバツツジ				C	調		○	
499		ユキグニミツバツツジ				C	C		○	
500		アカヤシオ				B			○	
501		シロヤシオ				B	B		○	
502	アカネ	ホソバオオアリドオシ					A		○	
503		オオアリドオシ					A		○	
504		ジュズネノキ				C			○	
505		キヌタソウ				B	A		○	
506		オオヤマムグラ					C		○	
507		サツマイナモリ				B	調		○	
508		イナモリソウ					B		○	
509		シロバナイナモリソウ				EX	今		○	
510		カギカズラ				B	A		○	
511	リンドウ	リンドウ						B	○	○
512		ホソバリンドウ						B	○	
513		ムラサキセンブリ			NT	B	A		○	
514		イヌセンブリ			NT	C	A	A	○	
515	マチン	チトセカズラ			VU	C			○	
516		ホウライカズラ				C	B		○	
517		ヒメナエ			VU	A			○	
518		アイナエ				C	A		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(12)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
519	キョウチクトウ	キジョラン					A		○	
520		ケテイカカズラ				調			○	○
521		フナバラソウ			NT	A	A		○	
522		コカモメヅル				C	B		○	○
523		タチカモメヅル					B		○	
524		クサナギオゴケ			VU	A	A		○	
525		スズサイコ			NT		C	A	○	○
526	ヒルガオ	アオイゴケ				B	調		○	○
527	ナス	ヤマホオズキ			VU	A	A		○	
528		イガホオズキ					C		○	
529		ヤマホロシ				C	C		○	
530	ムラサキ	オニルリソウ					B		○	
531		ムラサキ			EN	A	A		○	
532	モクセイ	セッツイボタ				調			○	
533	オオバコ	アブノメ				C	B		○	
534		キクガラクサ			NT	B			○	
535		オオアブノメ			VU	A			○	
536		シソクサ				C	B		○	
537		コキクモ			VU	A			○	
538		キクモ					C		○	
539		ウンラン				A	今	今	○	
540		ヒヨクソウ				A			○	
541		クワガタソウ				B			○	
542		イヌノフグリ			NT	C	C	B	○	○
543		カワヂシャ			NT	C	B	調	○	○
544	ゴマノハグサ	フジウツギ				C	B		○	
545		ゴマノハグサ			NT	EX	今		○	
546		オオヒナノウスツボ				B			○	
547	シソ	カワミドリ					B		○	
548		ジュウニヒトエ					C		○	
549		タニジャコウソウ			NT	EX	今		○	
550		ジャコウソウ					B		○	
551		キセワタ			VU	A	今		○	
552		マネキグサ			NT	A	A		○	
553		シロネ						B	○	
554		ホソバヤマジソ			VU	A			○	
555		シラゲヒメジソ					調		○	
556		ヤマジソ			NT	C	B		○	
557		レモンエゴマ					B		○	
558		トラノオジソ					B		○	
559		セトエゴマ					B		○	
560		ミズネコノオ			NT	A			○	
561		キバナアキギリ					A		○	
562		ミゾコウジュ			NT	B			○	○
563		ヒメナミキ				A			○	
564		シソバタツナミ				調			○	
565		ヤマタツナミソウ					B		○	
566		ミヤマナミキ				B	B		○	
567		ナミキソウ				B			○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(13)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
568	シソ	カリガネソウ				B	A		○	
569		ハマゴウ					C	B	○	○
570	ハマウツボ	オオナンバンギセル				B	B		○	
571		ゴマクサ			NT	B	A	A	○	
572		キュウシュウコゴメグサ				A			○	
573		クチナシグサ				C	C		○	
574		ハマウツボ			VU	A	今		○	
575		シオガマギク				B	今		○	
576		キヨスミウツボ				B	B		○	
577		ヒキヨモギ					C		○	
578		オオヒキヨモギ			NT				○	
579	タヌキモ	ノタヌキモ			VU	C	A	A	○	
580		イヌタヌキモ			NT				○	○
581		ホザキノミミカキグサ						B	○	
582		フサタヌキモ			VU	EX		今	○	
583		ミカワタヌキモ			EN	A	A	A	○	
584		ヒメタヌキモ			NT	B	A		○	
585		ムラサキミミカキグサ			NT	C	B	A	○	
586	キツネノマゴ	オギノツメ				B	B	B	○	
587		ハグロソウ					B		○	
588		スズムシバナ				B			○	
589	クマツヅラ	クマツヅラ						B	○	○
590	モチノキ	フウリンウメモドキ					B		○	
591		タマミズキ				C	C		○	
592		クロソヨゴ					C		○	
593	キキョウ	サワギキョウ					C		○	
594		キキョウ			NT		B	B	○	○
595	ミツガシワ	ヒメシロアサザ			VU	A	今		○	
596		ガガブタ			NT		B		○	
597		アサザ			NT	B	今		○	○
598	キク	ヌマダイコン				C	A		○	
599		テイショウソウ				C	C		○	
600		ホソバノヤマハハコ				A	今		○	
601		カワラハハコ				B			○	
602		フクド			NT	B			○	○
603		ヒメヨモギ				B	B		○	
604		ヒメシオン				A	A		○	
605		ヤマジノギク				C	A		○	
606		サワシロギク						B	○	
607		オケラ				C	C		○	○
608		タウコギ				C	今		○	
609		コバナガンクビソウ			VU	C			○	
610		ヒメガンクビソウ					C		○	
611		シマカンギク					C		○	
612		ノジギク				C	A		○	○
613		モリアザミ				B	今		○	
614		キセルアザミ						B	○	
615		フジバカマ			NT	A			○	
616		サケバヒヨドリ				調	調		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(14)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
617	キク	ヒヨドリバナ（ヒヨドリバナ二倍体）					C		○	
618		スイラン						B	○	
619		オグルマ				C	B	A	○	○
620		カセンソウ				B	B		○	
621		ホソバニガナ			EN	A	A		○	
622		タカサゴソウ			VU	EX	A		○	
623		ノニガナ				C	C		○	
624		ハマニガナ				C			○	
625		オタカラコウ					B		○	
626		ハンカイソウ				C	B		○	
627		フクオウソウ				B	B		○	
628		モミジガサ					B		○	
629		ミヤマコウモリソウ			EN	A	A		○	
630		ウスゲタマブキ					C		○	
631		ナガバノコウヤボウキ					C		○	
632		カシワバハグマ				B	B		○	
633		アキノハハコグサ			EN	EX	今		○	
634		ホクチアザミ				B	今		○	
635		ミヤコアザミ				A	今		○	
636		ヒメヒゴタイ			VU	A			○	
637		キクアザミ				A	A		○	
638		タムラソウ					B		○	
639		ツクシメナモミ					調		○	
640		アオヤギバナ				A	A		○	
641		ヤブレガサモドキ			EN	A	A		○	
642		ハバヤマボクチ				A	A		○	
643		ニシノヤマタイミンガサ				A			○	
644		クシバタンポポ				C			○	
645		コウリンカ			VU	A	今		○	
646		オカオグルマ					B		○	
647		サワオグルマ					B		○	
648		ウラギク			NT	A			○	○
649		オナモミ			VU	EX	今		○	
650	トベラ	コヤスノキ			NT	C			○	
651	ウコギ	ウラゲウコギ					C		○	
652	セリ	ヒメノダケ				A			○	
653		ノダケ					A		○	
654		ハマウド					B	調	○	○
655		ミシマサイコ			VU	A	A		○	
656		ドクゼリ				EX	今	今	○	
657		ハマボウフウ					B	B	○	○
658		イブキボウフウ					B		○	
659		ボタンボウフウ				B			○	
660		カワラボウフウ					B		○	
661		ムカゴニンジン					C		○	
662		ヌマゼリ			NT	A			○	
663		カノツメソウ				A	A		○	

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-7(15)　重要な種の状況

番号	科名	種名	選定基準						既存資料調査	現地調査
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
664	ガマズミ	ゴマキ					C		○	
665		ヤマシグレ					B		○	
666	スイカズラ	オオツクバネウツギ				C	B		○	
667		ナベナ				B			○	
668		ヤマヒョウタンボク				A	A		○	
669		キンキヒョウタンボク			EN	A	A		○	
670		オミナエシ						B	○	○
671		マツムシソウ				A	A		○	
672		ニシキウツギ				C			○	
	129 科	672 種	0 種	1 種	161 種	456 種	495 種	116 種	667 種	67 種

注）選定基準及びランクは、表 11.9-2 に対応しています。

表 11.9-8　重要な群落等の状況

番号	項目	名称	所在地	選定基準						既存資料調査	現地調査
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		
1	天然記念物	カイヅカイブキ (稲美町指定)	加古郡稲美町中村 14(円光寺)	町						○	
2	重要な植物群落	アサザ群落	稲美町六分一・天満大池			A				○	○
3		海浜植物群落	姫路市大塩町・姫路シーサイドゴルフ場南の海岸			C				○	
4		的形のノジギク群落	―		C					○	
5		大塩・的形の海岸植生	姫路市大塩町、的形町、木場			B				○	○
6		塩沼地植物群落	姫路市飾磨区中島・市川河口			A				○	○
7	巨樹・巨木林	イチョウ	姫路市的形町的形(磯山の山麓)		○					○	
8		イチョウ 注 2)	姫路市白浜町(松原八幡神社)		○					○	
9		クロガネモチ	―		○					○	
10	保存樹・保護樹木	クスノキ (明石市指定)	明石市魚住町清水 2744					○		○	
11		フジ (明石市指定)	明石市魚住町清水 2744					○		○	
12		イブキ (高砂市指定)	高砂市高砂町東宮町 190					○		○	
13		カヤ (高砂市指定)	高砂市高砂町東宮町 190					○		○	
14		エノキ (高砂市指定)	高砂市高砂町東宮町 190					○		○	
15		クロマツ (高砂市指定)	高砂市高砂町横町 1074-2					○		○	
16		ソテツ (高砂市指定)	高砂市高砂町横町 1074-2					○		○	
17		ビャクシン (姫路市指定)	姫路市八家(西念寺)					○		○	
18		クスノキ (姫路市指定)	姫路市白浜町(白浜小学校)					○		○	
19		クスノキ (姫路市指定)	姫路市白浜町(白浜小学校)					○		○	
20		イチョウ 注 2) (姫路市指定)	姫路市白浜町(松原八幡神社)					○		○	
21		エノキ (姫路市指定)	姫路市白浜町 (白浜支所南市道敷)					○		○	
22		クスノキ (姫路市指定)	姫路市飾磨区中島 (中島天満宮)					○		○	
23		クロガネモチ (姫路市指定)	姫路市飾磨区 (恵美酒宮天満神社)					○		○	
24		天満社の森 (姫路市指定)	姫路市飾磨区須加					○		○	

注 1) 選定基準及びランクは、表 11.9-3 に対応しています。
注 2) 番号 8,20 のイチョウは同一個体です。

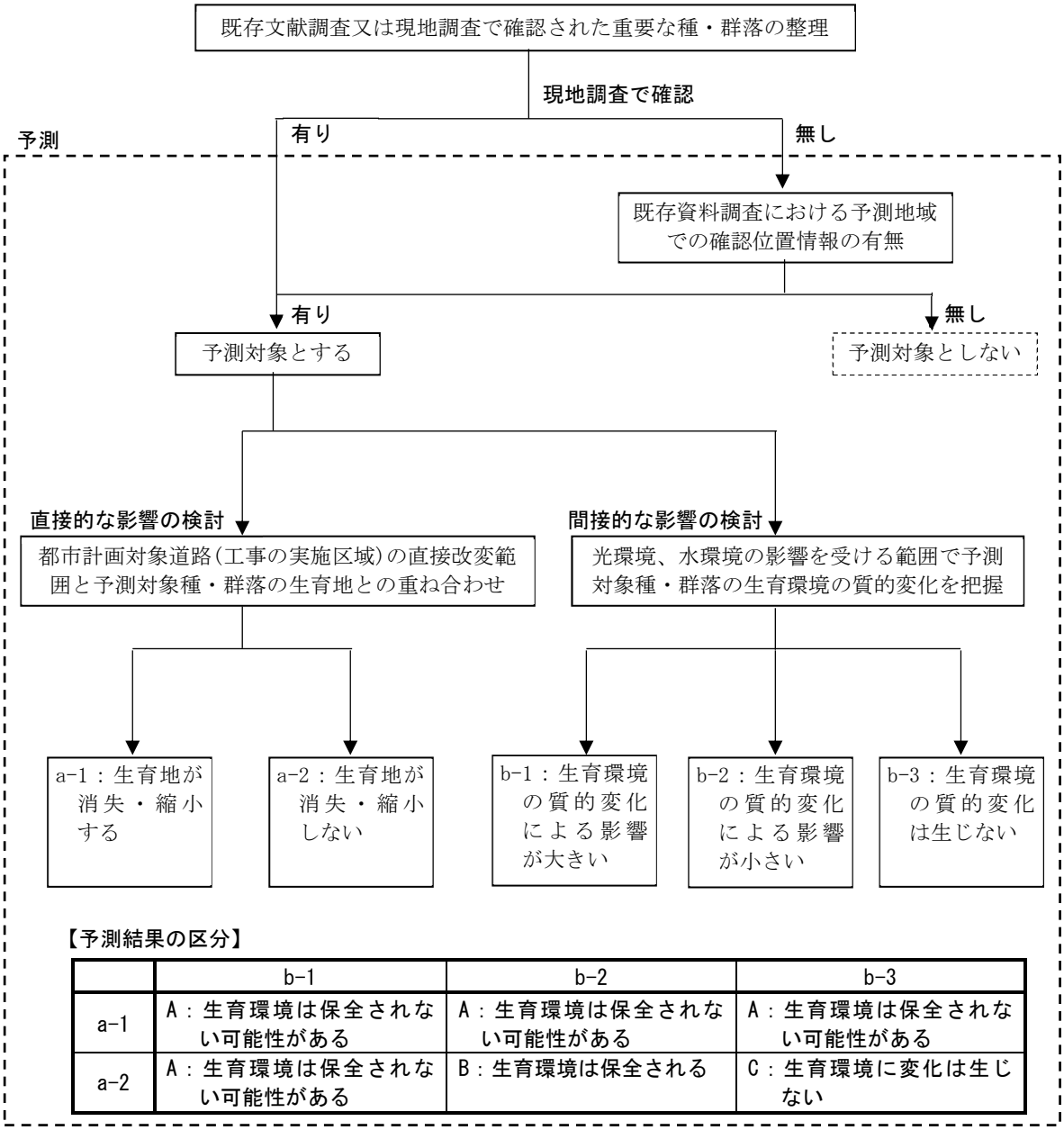
2) 予測

(1) 予測の手法

① 予測の基本的な手法

予測は、技術手法に基づき、事業実施に伴う都市計画対象道路(工事の実施区域)と重要な種・群落の分布範囲から、生育地が消失・縮小する程度を把握しました。また、工事の実施及び道路の存在における対象種の生態を踏まえた生育環境の質的変化の程度を把握しました。次に、それらが重要な種及び群落の生育に及ぼす影響の程度を、科学的知見や類似事例を参考に予測しました。

予測手順は、図 11.9-4 に示すとおりです。



【予測結果の区分】

	b-1	b-2	b-3
a-1	A：生育環境は保全されない可能性がある	A：生育環境は保全されない可能性がある	A：生育環境は保全されない可能性がある
a-2	A：生育環境は保全されない可能性がある	B：生育環境は保全される	C：生育環境に変化は生じない

注 1) 直接的な影響(直接改変の影響)、間接的な影響(質的変化の影響)をそれぞれ検討し、より大きな影響に基づき環境影響の程度(A～C)を判定しました。間接的な影響の程度は、調査地域に生育する個体のうち、影響を受ける個体数の割合を踏まえて判定しました。

注 2) 間接的な影響の検討を行う範囲は、都市計画対象道路(工事の実施区域)から 50m の範囲としました。これは、「道路建設に伴う森林の伐開により閉鎖されていた林冠が開かれ、林内に強い日射や風の影響が及ぶようになった結果、樹木の枯損や林床植生に変化が生じた範囲が道路端から 11～53m である」という研究報告(「道路建設による周辺植生への影響-総説- 応用植物社会学研究 Vol.5」(昭和 51 年 3 月、亀山章))に基づき想定した範囲です。

図 11.9-4 予測手順

② 予測地域

予測地域は、調査地域と同じとしました。

③ 予測対象時期等

予測対象時期は、事業特性及び重要な種・群落の生態や特性を踏まえ、影響が最大になるおそれのある時期としました。

④ 予測対象

予測対象は、既存資料調査及び現地調査により確認された重要な種・群落のうち、予測地域で生育する可能性のある種・群落としました。

予測対象とした重要な種・群落は、表 11.9-9 に示すとおりです。

なお、カキツバタ、イスノキ、シリブカガシ、ハマボウ、ハマヒサカキ、ナツツバキ、アオイゴケ、アサザの８種は、逸出、栽培、植栽個体であるため、予測対象から除外しました。

また、天然記念物、巨樹・巨木林、保存樹・保護樹木については、道路の計画段階において回避する計画としているため、予測対象から除外しました。

表 11.9-9　予測対象種等の選定結果

区分		予測対象種等	
		種名及び群落名	種数
重要な種	現地調査で確認された種 (67 種)	コヒロハハナヤスリ、ヒメミズワラビ、センリョウ、ハンゲショウ、ウマノスズクサ、ホッスモ、イトモ、エビネ、キンラン、クゲヌマラン、シュンラン、アキザキヤツシロラン、コクラン、ユウスゲ、コヤブラン、ノシラン、コガマ、オオホシクサ、ウキヤガラ、コウボウムギ、フサスゲ、シオクグ、アオテンツキ、カモノハシ、ナガミノオニシバ、ハマエンドウ、バクチノキ、ゴキヅル、タカトウダイ、ミズユキノシタ、コイヌガラシ、ハマサジ、コギシギシ、イシモチソウ、カワラナデシコ、ホソバハマアカザ、ハマアカザ、オカヒジキ、ハママツナ、ツルナ、リンドウ、ケテイカカズラ、コカモメヅル、スズサイコ、イヌノフグリ、カワヂシャ、ミゾコウジュ、ハマゴウ、イヌタヌキモ、クマツヅラ、キキョウ、フクド、オケラ、ノジギク、オグルマ、ウラギク、ハマウド、ハマボウフウ、オミナエシ	59 種[注)]
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生育する可能性のある重要な種 (該当なし)	－	
重要な群落	現地調査で確認された重要な群落 (3 群落)	アサザ群落、大塩・的形の海岸植生、塩沼地植物群落	5 群落
	現地調査において未確認で、既存資料調査において予測地域に生育する可能性のある重要な群落 (2 群落)	海浜植物群落、的形のノジギク群落	

注）カキツバタ、イスノキ、シリブカガシ、ハマボウ、ハマヒサカキ、ナツツバキ、アオイゴケ、アサザの 8 種は、逸出、栽培、植栽個体であるため、予測対象から除外しました。

(2) 予測結果

予測結果の概要は、表 11.9-10 及び表 11.9-11 に示すとおりです。

生育環境への影響の程度は以下のとおりです。

A：生育環境は保全されない可能性がある

B：生育環境は保全される

C：生育環境に変化は生じない

クゲヌマラン、コクラン、ゴキヅル、ケテイカカズラ、カワヂシャ、クマツヅラは、生育地が消失・縮小することから、「A：生育環境は保全されない可能性がある」と予測されました。また、ハンゲショウ、イトモ、ハママツナ、フクドは、生育環境の質的変化による影響が大きいと考えられることから「A：生育環境は保全されない可能性がある」と予測されました。その他の種・群落については、「B：生育環境は保全される」あるいは「C：生育環境に変化は生じない」と予測されました。

表 11.9-10(1)　予測結果の概要(重要な種)

番号	種名	生育環境への影響	
		工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
1	コヒロハハナヤスリ	C	C
2	ヒメミズワラビ	C	C
3	センリョウ	C	C
4	ハンゲショウ	A	A
5	ウマノスズクサ	C	C
6	ホッスモ	C	C
7	イトモ	A	A
8	エビネ	C	C
9	キンラン	C	C
10	クゲヌマラン	A	A
11	シュンラン	B	B
12	アキザキヤツシロラン	C	C
13	コクラン	A	A
14	ユウスゲ	C	C
15	コヤブラン	C	C
16	ノシラン	C	C
17	コガマ	C	C
18	オオホシクサ	C	C
19	ウキヤガラ	C	C
20	コウボウムギ	B	B
21	フサスゲ	C	C
22	シオクグ	B	B
23	アオテンツキ	C	C
24	カモノハシ	C	C
25	ナガミノオニシバ	B	B
26	ハマエンドウ	B	B
27	バクチノキ	C	C
28	ゴキヅル	A	A
29	タカトウダイ	C	C
30	ミズユキノシタ	C	C
31	コイヌガラシ	B	B
32	ハマサジ	C	C
33	コギシギシ	C	C
34	イシモチソウ	C	C
35	カワラナデシコ	C	C
36	ホソバハマアカザ	C	C
37	ハマアカザ	C	C

表 11.9-10(2)　予測結果の概要(重要な種)

番号	種名	生育環境への影響	
		工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
38	オカヒジキ	B	B
39	ハママツナ	A	A
40	ツルナ	C	C
41	リンドウ	C	C
42	ケテイカカズラ	A	A
43	コカモメヅル	C	C
44	スズサイコ	C	C
45	イヌノフグリ	C	C
46	カワヂシャ	A	A
47	ミゾコウジュ	C	C
48	ハマゴウ	B	B
49	イヌタヌキモ	C	C
50	クマツヅラ	A	A
51	キキョウ	C	C
52	フクド	A	A
53	オケラ	C	C
54	ノジギク	B	B
55	オグルマ	C	C
56	ウラギク	C	C
57	ハマウド	B	B
58	ハマボウフウ	B	B
59	オミナエシ	C	C

表 11.9-11　予測結果の概要(重要な群落)

番号	群落名	生育環境への影響	
		工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	道路の存在
1	アサザ群落	C	C
2	海浜植物群落	C	C
3	的形のノジギク群落	C	C
4	大塩・的形の海岸植生	C	C
5	塩沼地植物群落	C	C

① 重要な種

重要な種の予測結果は、表 11.9-12 に示すとおりです。

表 11.9-12(1)　重要な種の予測結果

項目		種名	コヒロハハナヤスリ	科名	ハナヤスリ科	
一般生態		【生育環境・生態】里山林。お墓やお寺の境内、湿った道ばたなどに生えるシダ植物。 【大きさ・形態】高さ約 20cm。葉を 1～3 枚つけ、それとは別に胞子が入った棒のような形の葉をのばす。 【花期・結実期】多年草だが、地上部は秋から冬には枯れる。 【分布】国内:本州以南。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省第5次RL －
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020	－	Ⅴ神戸版RL2020	C	Ⅵ明石市RL2019 A
確認状況		市街地等(緑地・公園等)の 1 地点で、20 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(2)　重要な種の予測結果

項目		種名	ヒメミズワラビ	科名	イノモトソウ科	
一般生態		【生育環境・生態】水田や湿地に生育。一年草。 【大きさ・形態】栄養葉は長さ 10～15cm ほどで、35～50cm に達する場合もある。 【花期・結実期】裂片が角状になった胞子葉に 9 月以降に胞子をつくる。冬には枯れる。 【分布】国内:本州(新潟、関東以西)、四国、九州、沖縄。県内:香美町、豊岡市、赤穂市、たつの市、姫路市、加古川市、明石市、丹波市、川西市、尼崎市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法	－	Ⅱ種の保存法	－	Ⅲ環境省第5次RL －
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020	C	Ⅴ神戸版RL2020	C	Ⅵ明石市RL2019 B
確認状況		耕作地の 2 地点で、70 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(3)　重要な種の予測結果

項目		種名　センリョウ		科名　センリョウ科	
一般生態		【生育環境・生態】常緑広葉樹林の林床に生える。 【大きさ・形態】茎は直立してまばらに分枝し、高さ 70～100cm、全体無毛である。葉はやや肉質で厚く、光沢がある。 【花期・結実期】花期は 6～7 月。枝先に 2～3 回分枝する穂状花序を伸ばし、まばらに多くの黄緑色の花をつける。 【分布】国内:本州(関東以西)、四国、九州、沖縄。県内:上郡町、赤穂市、西宮市、洲本市、南あわじ市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－	
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、竹林、その他草地群落の 12 地点で、29 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C

表 11.9-12(4)　重要な種の予測結果

項目		種名　ハングショウ		科名　ドクダミ科	
一般生態		【生育環境・生態】低地の水辺や湿地に群生する、臭気のある多年草。花序に近い数葉は開花時に、その下半部が白くなり、昆虫を誘引する。 【大きさ・形態】地下茎は太くて、横に這い、茎は高さ 50～100cm。葉は卵形、基部は心形で、長さ 5～15cm、5～7 脈がある。 【花期・結実期】花期は 6～8 月。 【分布】国内:本州、四国、九州、琉球諸島。県内:神戸市、西宮市、伊丹市、明石市、加古川市、加東市、姫路市、佐用町、豊岡市、香美町、新温泉町、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　B	
確認状況		耕作地、市街地等(水路付近の湿地)の 3 地点で、560 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、1 地点 500 個体は工事の実施区域周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。			A
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、1 地点 500 個体は都市計画対象道路周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。			A

表 11.9-12(5)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ウマノスズクサ**		科名　**ウマノスズクサ科**		
一般生態		【生育環境・生態】粉白色を帯びる多年生のつる草で、草原に生育する。 【大きさ・形態】葉はやや厚い紙質、三角状狭卵形、長さ 3～9cm、幅 2～5cm。 【花期・結実期】花は 6～8 月に開花する。国内で結実することはまれである。 【分布】国内：本州(関東以西)、四国、九州。県内：神戸市、三田市、猪名川町、明石市、三木市、加西市、姫路市、赤穂市、たつの市、佐用町、豊岡市、養父市、丹波篠山市、丹波市、洲本市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		市街地等(河川敷付近の草地)の 4 地点で、38 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(6)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ホッスモ**		科名　**トチカガミ科**		
一般生態		【生育環境・生態】ため池、用水路などの水中に生える水草。 【大きさ・形態】茎はよく枝分かれし、葉は細長く 1～2.5cm ほど。 【花期・結実期】9～11 月に葉のつけねに小さな花をつける。 【分布】国内：北海道～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		湿地・河川・池沼植生(樹林内の池)の 1 地点で、30 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(7)　重要な種の予測結果

項目		種名　**イトモ**		科名　**ヒルムシロ科**		
一般生態		【生育環境・生態】池や流水中に生える多年草。 【大きさ・形態】茎も葉も非常に細い。葉はすべて沈水葉で狭線形、長さ 2～5cm になり、幅 0.7～1.5mm で全縁である。葉の内側に茎を抱く托葉があり、長さ約 7mm で、葉のつけ根の反対側では開き、両縁が重なり合っている。総花柄は長さ 1～2cm、径約 0.4mm。穂状花序は長さ 4～5cm で、花をつけない節間の部分が伸びる。 【花期・結実期】6～8 月に開花する。 【分布】国内：北海道、本州、四国、九州。県内：神戸市、西宮市、宝塚市、三田市、猪名川町、三木市、加西市、加東市、たつの市、豊岡市、香美町、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		市街地等(緑地付近の水路)の 5 地点で、71 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、5 地点 71 個体は、工事の実施区域周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、5 地点 71 個体は、都市計画対象道路周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(8)　重要な種の予測結果

項目		種名　**エビネ**		科名　**ラン科**		
一般生態		【生育環境・生態】雑木林の下等に生える。 【大きさ・形態】葉は 2～3 個ついて、長さ 15～25cm、幅 5～8cm。鋭頭、無毛。花茎は高さ 20～40cm。苞は披針形で、膜質、長さ 5～10mm。花被片は暗褐色。萼片は狭卵形、鋭頭。側花弁は萼片よりやや狭く、同長。唇弁は萼片と同長、帯紅色または白色で、扇形、3 深裂。 【花期・結実期】4～5 月、ややまばらに 8～15 花をつける。 【分布】国内：北海道(西南部)、本州、四国、九州、琉球諸島。県内：神戸市、西宮市、宝塚市、猪名川町、西脇市、三木市、加西市、多可町、姫路市、市川町、神河町、相生市、宍粟市、たつの市、上郡町、佐用町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、35 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(9)　重要な種の予測結果

項目		種名　**キンラン**		科名　**ラン科**	
一般生態		【生育環境・生態】山や丘陵地の疎林下に生える。 【大きさ・形態】茎は直立して高さ 30～70cm、稜がある。葉は 5～8 個で互生し、広披針形、長さ 8～15cm、幅 2～4cm、先端は鋭くとがり、基部は茎を抱く。 【花期・結実期】4～6 月、黄色の花を 3～12 個つける。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、宝塚市、三田市、猪名川町、明石市、西脇市、三木市、小野市、加東市、多可町、姫路市、神河町、宍粟市、上郡町、豊岡市、養父市、香美町、新温泉町、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　A	
確認状況		落葉広葉樹二次林の 1 地点で、2 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C

表 11.9-12(10)　重要な種の予測結果

項目		種名　**クゲヌマラン**		科名　**ラン科**	
一般生態		【生育環境・生態】冷温帯から暖温帯の樹林下に生える。 【大きさ・形態】茎は直立し、高さ 10～30cm、無毛。葉は 3～6 個で、互生し、狭楕円形、長さ 3～8cm、幅 1～3cm、鋭尖頭、無毛で基部は茎を抱く。 【花期・結実期】5～6 月白色の数花をつける。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、三木市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　VU	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　調	Ⅴ神戸版RL2020　調	Ⅵ明石市RL2019　－	
確認状況		市街地等(緑地・公園等:海岸付近の緑地帯)の 20 地点で、452 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 20 地点 452 個体のうち 3 地点 7 個体が工事の実施区域に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、5 地点 103 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。			A
	道路の存在	本種の確認地点 20 地点 452 個体のうち 3 地点 7 個体は都市計画対象道路に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、5 地点 103 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。			A

表 11.9-12(11)　重要な種の予測結果

項目		種名　シュンラン		科名　ラン科		
一般生態		【生育環境・生態】暖温帯のやや乾いた林床に生える。球茎は節間が短縮し、葉を束生する。 【大きさ・形態】葉は線形、縁に微鋸歯があり、長さ 20～35cm、幅 6～10mm、鋭尖頭。花茎は 10～25cm。 【花期・結実期】花期は 3～4 月。黄緑色の花を 1 個、まれに 2 個つける。 【分布】国内:北海道～九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、市街地等(緑地・公園等)の 4 地点で、7 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 1 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 1 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(12)　重要な種の予測結果

項目		種名　アキザキヤツシロラン		科名　ラン科		
一般生態		【生育環境・生態】ふつう常緑樹林下に生えるが、しばしば竹林下にも生える。 【大きさ・形態】茎の高さ 5～10cm。 【花期・結実期】ハルザキヤツシロランとよく似た習性と形態を示すが、本種は 9～10 月と花期が遅く、花の数が 2～8 個と多い。 【分布】国内:本州(千葉県以西)、四国、九州、沖縄、小笠原。県内:但馬、西播、姫路。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　A	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		竹林の 2 地点で、6 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(13)　重要な種の予測結果

項目		種名　**コクラン**		科名　**ラン科**		
一般生態		【生育環境・生態】暖温帯の常緑樹林下に生える。 【大きさ・形態】花茎は 15～30cm。 【花期・結実期】花期は 6～7 月。暗紫色の花を 5～10 個まばらにつける。 【分布】国内：本州(福島県以南)、四国、九州、琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、竹林、耕作地、その他草地群落の 39 地点で、353 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 39 地点 353 個体のうち 1 地点 5 個体は工事の実施区域に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、1 地点 10 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種の確認地点 39 地点 353 個体のうち 1 地点 5 個体は都市計画対象道路に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、1 地点 10 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(14)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ユウスゲ**		科名　**ススキノキ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸やため池の土手等の草原に生える多年草。 【大きさ・形態】葉は線形、長さ 40～60cm、幅 5～15mm。花茎は高さ 100～150cm。花被はレモン黄色で、やや芳香がある。花被片の長さや幅は個体によりいろいろである。 【花期・結実期】花は 7～9 月に開き、花序が分枝し、つぎつぎに咲き続ける。花は夕刻開き、翌日午前中に閉じる。 【分布】国内：北海道、本州、四国、九州。県内：神戸市、宝塚市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、加東市、姫路市、相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、豊岡市、香美町、新温泉町、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		落葉広葉樹二次林、市街地等(公園内の草地)の 3 地点で、27 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(15)　重要な種の予測結果

項目		種名　**コヤブラン**		科名　**クサスギカズラ科**		
一般生態		【生育環境・生態】林下に生える多年草で、ヤブランに似ているが匐枝がある。 【大きさ・形態】葉の幅は 4～7mm、種子は径 5～7mm。 【花期・結実期】花は 7～9 月、多数かまばらにつく。 【分布】国内:本州、四国、九州、琉球諸島。県内:神戸市、西宮市、伊丹市、猪名川町、三木市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　調		
確認状況		塩沼地植生(河口付近の河畔林)の 1 地点で、10 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(16)　重要な種の予測結果

項目		種名　***ノシラン***		科名　**クサスギカズラ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海に近い林の下に生える多年草で、匐枝はない。 【大きさ・形態】葉は線形で長さ 30～80cm になり、厚く、光沢がある。花茎は高さ 30～50cm。花被片は白色または淡紫色で広披針形。 【花期・結実期】花期は 7～9 月。披針形の苞の腋に 3～8 花が下向きにつく。 【分布】国内:本州(関東以西)、四国、九州、沖縄。県内:神戸市、西宮市、淡路市、洲本市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林の 4 地点で、10 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(17)　重要な種の予測結果

項目		種名　**コガマ**		科名　**ガマ科**		
一般生態		【生育環境・生態】ほかの高茎草本が侵入しない水辺の湿地や休耕田を好む。 【大きさ・形態】ガマに似ているが、少し小さく、茎の高さは 1～1.5m 程度、葉はより細く、幅 1cm 以下である。雌花群も短く、長さ 6～10cm。花粉は単粒で合着していない。 【花期・結実期】花期は 7～8 月。 【分布】国内：本州、四国、九州。県内：神戸市、西宮市、宝塚市、三田市、加古川市、稲美町、西脇市、三木市、小野市、加東市、豊岡市、丹波篠山市、丹波市、洲本市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		耕作地の 3 地点で、220 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(18)　重要な種の予測結果

項目		種名　**オオホシクサ**		科名　**ホシクサ科**		
一般生態		【生育環境・生態】干上がったため池の岸などの湿地に生育する。一年草。 【大きさ・形態】茎はごく短い。葉は束生して斜上し、披針状線形、長さ 8～20cm、基部で幅 5～8mm、全縁、先端は次第に細くなり、やや鈍端となる。花茎は多数つき、高さ 15～30cm、5～6 本の肋があって少しねじれ、先端に半球形の頭花をつける。頭花は直径約 6mm、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、広倒卵形、鈍頭、小花にははじめ白色の短毛があるが、後に少なくなる。子房と蒴果は 3 室である。 【花期・結実期】花期は 8～10 月。 【分布】国内：本州(愛知県以西)、四国、九州、琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		湿地・河川・池沼植生の 1 地点で、50 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(19)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ウキヤガラ**		科名　**カヤツリグサ科**	
一般生態		【生育環境・生態】平地の池畔の浅水中や湿地の溝中などにしばしば群生する大型の多年草。 【大きさ・形態】茎は長さ 100～150cm。葉は茎生し、葉身は線形で幅 5～10mm。花序は頂生し、散房状、3～8 個の枝をつける。 【花期・結実期】果実は菱形状倒卵形、7～10 月に熟す。 【分布】国内:北海道～九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　－	
確認状況		市街地等(水路付近の湿地)の 1 地点で、50 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C

表 11.9-12(20)　重要な種の予測結果

項目		種名　**コウボウムギ**		科名　**カヤツリグサ科**	
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地に多い。 【大きさ・形態】有花茎は太く、高さ 10～20cm。 【花期・結実期】果胞は長さ約 1cm、4～6 月に熟す。 【分布】国内:北海道～琉球。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　B	
確認状況		砂丘植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(海岸付近の住宅地)の 9 地点で、12,306 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、3 地点 700 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、3 地点 700 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。			B

表 11.9-12(21)　重要な種の予測結果

項目		種名　フサスゲ		科名　カヤツリグサ科	
一般生態		【生育環境・生態】沿海地の草地や林縁に生育する多年草。 【大きさ・形態】大きな株をつくり高さ 30～60cm になる多年草。シラホスゲともいう。葉は幅 3～6mm、小穂は 5～10 個が接続してつき、淡緑色で光沢がある。下方のものは雌性で円柱形をなし、長さ 2～5cm、柄があり、上方のものは下部に雄花部があり、頂小穂はときに雄花のみとなる。 【花期・結実期】果実期:5～6 月。 【分布】国内:本州(近畿以西)、四国、九州、琉球諸島。県内:神戸市、加古川市、小野市、姫路市、赤穂市、たつの市、洲本市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　－	
確認状況		市街地等(海岸付近の草地)の 1 地点で、10 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C

表 11.9-12(22)　重要な種の予測結果

項目		種名　シオクグ		科名　カヤツリグサ科	
一般生態		【生育環境・生態】海岸の塩水の出入りする泥地に生える多年草。長い地下匍枝がある。 【大きさ・形態】有花茎は高さ 30～50cm。果胞は長楕円形で毛が無く、木質で長さ 6～8mm。 【花期・結実期】4～7 月に熟す。 【分布】国内:北海道～琉球。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　調	
確認状況		植林地、その他草地群落、砂丘植生、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河川敷付近の草地)の 22 地点で、2,926 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、3 地点 280 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。			B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、3 地点 280 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。			B

表 11.9-12(23)　重要な種の予測結果

項目		種名　アオテンツキ		科名　カヤツリグサ科		
一般生態		【生育環境・生態】平地の湿地に生育する。ややハタケテンツキに近い。 【大きさ・形態】茎は長さ 5～15cm。小穂は淡緑色で卵円形、密に鱗片をつける。その小穂の色に由来する。 【花期・結実期】花期は 8～10 月。 【分布】国内：本州～九州。県内：神戸市、三田市、明石市、三木市、小野市、加西市、加東市、福崎町、上郡町、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		市街地等(ため池付近の湿地)の 2 地点で、130 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(24)　重要な種の予測結果

項目		種名　カモノハシ		科名　イネ科		
一般生態		【生育環境・生態】湿地、草地、砂浜などに生える。 【大きさ・形態】高さ 30～70cm になる無毛の多年草。総は 2 個あるが、ぴったりくっついて直立していて、1 個のように見える。 【花期・結実期】花期は 7～11 月。 【分布】国内：本州～九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		耕作地の 1 地点で、10 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(25)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ナガミノオニシバ**		科名　**イネ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地に生える多年草で、オニシバに似ている。 【大きさ・形態】小穂は長さ 4～7mm になり、幅 1.2～1.5mm、披針形で、やや細い。 【花期・結実期】花期:5～6 月。 【分布】国内:本州(関東以西)、四国、九州。県内:姫路市、たつの市、新温泉町、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		植林地、塩沼地植生、市街地等(海岸付近の草地)の 3 地点で、145 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 40 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 40 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(26)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ハマエンドウ**		科名　**マメ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸、まれに湖や川原などの砂地の草原に普通の多年草。 【大きさ・形態】茎は斜上し、長さ 100cm に達する。花は紫色～帯白色。豆果は無毛、熟すと黒褐色。種子は球形、褐色。 【花期・結実期】花期は 4～7 月。花は 1 総状花序に 3～6 個つく。 【分布】国内:北海道～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		常緑広葉樹二次林、その他草地群落、砂丘植生、塩沼地植生、市街地等(海岸付近の草地)の 14 地点で、346 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 5 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 5 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(27)　重要な種の予測結果

項目		種名　**バクチノキ**		科名　**バラ科**		
一般生態		【生育環境・生態】樹林。 【大きさ・形態】常緑高木で、高さ 15m、径 1m になる場合もある。樹皮は灰黒色または灰褐色、平滑で、外皮が鱗状にはげて、その跡は紅黄色となり、特異なまだら状になり、皮目は目だたない。葉は革質、長楕円形で、長さ 8～14cm。 【花期・結実期】花期は 9 月。葉腋から多数の花をつけた穂様の花序を出す。 【分布】国内:本州(関東以西)、四国、九州、琉球諸島。県内:神戸市、姫路市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林の 2 地点で、11 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(28)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ゴキヅル**		科名　**ウリ科**		
一般生態		【生育環境・生態】水辺に普通な一年生のつる草。 【大きさ・形態】黄緑色。 【花期・結実期】花期は 8～11 月。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:豊岡市、佐用町、赤穂市、たつの市、姫路市、加西市、小野市、三木市、加古川市、明石市、丹波市、宝塚市、伊丹市、西宮市、淡路市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		その他草地群落、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 22 地点で、134 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 22 地点 134 個体のうち 1 地点 10 個体は工事の実施区域に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、2 地点 10 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種の確認地点 22 地点 134 個体のうち 1 地点 10 個体は都市計画対象道路に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、2 地点 10 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(29)　重要な種の予測結果

項目		種名　タカトウダイ		科名　トウダイグサ科		
一般生態		【生育環境・生態】丘陵地、山地の草原に生える多年草。 【大きさ・形態】草丈 50～80cm の多年草。若いものは 1 本立ちであるが、のちに数本叢生する。葉は披針形から倒楕円状披針形で、表裏には短い軟毛が生えるが、しばしば無毛となる。茎頂に 5 枚(3～7 枚程度の変化がある)の葉を散状に輪生して、5 本(3～7 本)の散形枝を開出する。また、茎頂に近い茎葉から同様の花枝を腋生する。花序の下の苞葉は菱状卵形。 【花期・結実期】花期は 6～7 月。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、西宮市、三田市、加古川市、稲美町、加西市、姫路市、宍粟市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　A	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		常緑広葉樹二次林(樹林内の草地)の 1 地点で、6 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(30)　重要な種の予測結果

項目		種名　ミズユキノシタ		科名　アカバナ科		
一般生態		【生育環境・生態】水辺に生えるやわらかい多年草。 【大きさ・形態】全体に毛がない。茎の長さ 20～40cm。花は葉腋に単生し、ほとんど柄がない。 【花期・結実期】花期は 7～10 月。 【分布】国内:本州～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		落葉広葉樹二次林(ため池付近の草地)の 1 地点で、10 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(31)　重要な種の予測結果

項目		種名　**コイヌガラシ**		科名　**アブラナ科**		
一般生態		【生育環境・生態】水田などの水湿地に多い無毛の一年草または越年草。 【大きさ・形態】茎は高さ10～40cm。葉は長さ2～5.5cm、長楕円形で鋸歯がある。花は葉状の苞に腋生し、黄色でごく短い柄がある。 【花期・結実期】花期はふつう4～6月。 【分布】国内:本州～九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等(ため池付近の草地)の10地点で、3,243個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1地点200個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1地点200個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(32)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ハマサジ**		科名　**イソマツ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地に生える越年草。 【大きさ・形態】葉は根ぎわに群生し、厚くなめらかで、長楕円状へら形、長さ8～17cm、幅1.5～3cm。 【花期・結実期】9～11 月、群生する葉の中央から高さ 30～50cm の花茎を伸ばして著しく分枝し、多数の小穂からなる円錐状の花序をつくる。 【分布】国内:本州(三陸海岸以南の太平洋側)、四国、九州。県内:姫路市、相生市、赤穂市、たつの市、新温泉町、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		植林地、市街地等(河川敷の草地)の3地点で、67個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(33)　重要な種の予測結果

項目		種名　**コギシギシ**		科名　**タデ科**		
一般生態		【生育環境・生態】畑地やときに海岸に生育する越年草。 【大きさ・形態】翼状内蓁片の形はエゾノギシギシにやや似ているが、全体小さく、高さ 30～70cm になり、淡緑色で赤紫色をおびた部分はない。 【花期・結実期】花期は 4～6 月。花序は円錐状で枝は斜上し、枝はややまばらに花を輪生し、小型の葉状苞がある。 【分布】国内:本州(関東以西)、四国、九州、琉球諸島。県内:神戸市、伊丹市、姫路市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－		Ⅱ種の保存法　－		Ⅲ環境省第5次RL　NT
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　調		Ⅴ神戸版RL2020　調		Ⅵ明石市RL2019　－
確認状況		耕作地、市街地等の 4 地点で、20 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(34)　重要な種の予測結果

項目		種名　**イシモチソウ**		科名　**モウセンゴケ科**		
一般生態		【生育環境・生態】酸性の湿地に生える多年草。 【大きさ・形態】茎は高さ 10～30cm。茎葉はまばらに互生する。 【花期・結実期】花期は 5～6 月。はじめは頂生し、後に対生し、2～10 花をつける。 【分布】国内:本州(関東以西)、四国、九州、沖縄。県内:赤穂市、たつの市、姫路市、西脇市、加西市、加東市、小野市、三木市、高砂市、加古川市、稲美町、明石市、丹波市、丹波篠山市、三田市、神戸市、宝塚市、芦屋市、西宮市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－		Ⅱ種の保存法　－		Ⅲ環境省第5次RL　NT
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C		Ⅴ神戸版RL2020　B		Ⅵ明石市RL2019　B
確認状況		常緑広葉樹二次林(樹林内の草地)、常緑針葉樹二次林(樹林内の草地)の 5 地点で、59 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(35)　重要な種の予測結果

項目		種名　**カワラナデシコ**		科名　**ナデシコ科**		
一般生態		【生育環境・生態】低山～山地の草原や川原などに生える多年草。 【大きさ・形態】高さ 30～80cm。有花茎と無花茎がある。有花茎は直立して叢生し、上部で分枝する。花は径 3～4cm。淡紅紫色。 【花期・結実期】花期は 7～10 月。茎頂の集散花序に数個がまばらにつく。 【分布】国内:本州～九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		耕作地、砂丘植生、市街地等(線路付近の草地)の 12 地点で、310 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(36)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ホソバハマアカザ**		科名　**ヒユ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸または内陸の砂地に生える一年草。 【大きさ・形態】葉は細長く、長披針形～長線形、深緑色、長さ 2～10cm。 【花期・結実期】花期は 8～10 月。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:赤穂市、相生市、たつの市、姫路市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		植林地、砂丘植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河川敷の草地)の 12 地点で、1,895 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(37)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ハマアカザ**		科名　**ヒユ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地に生える一年草。 【大きさ・形態】茎は斜上するか直立して、枝を分け、毛はなく、高さ 40～60cm。葉はすべて互生し、柄があり、三角状卵形から長卵形、先は鋭形か鈍形、基部はくさび形、縁に不ぞろいの歯牙があり、厚くて多少革質で、長さ 2～8cm、幅 2～4.5cm。 【花期・結実期】花期は 8～10 月。 【分布】国内:北海道、本州。県内:相生市、豊岡市、香美町、新温泉町。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		植林地、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河川敷の草地)の 7 地点で、31 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(38)　重要な種の予測結果

項目		種名　**オカヒジキ**		科名　**ヒユ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂礫地に生える一年草。 【大きさ・形態】高さ 10～40cm。葉は肉質、円柱形で緑色、先は刺状になり、長さ 1～4cm。 【花期・結実期】花期は 7～10 月。 【分布】国内:北海道～琉球(沖縄島まで)。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		砂丘植生、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等(河口付近の草地)の 14 地点で、2,860 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、2 地点 70 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、2 地点 70 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(39)　重要な種の予測結果

項目		種名　ハママツナ		科名　ヒユ科		
一般生態		【生育環境・生態】海辺の砂地に生える一年草。暖地では二年草または多年草となることもある。 【大きさ・形態】茎は直立し、無毛、高さ 15～60cm になる。茎や葉は緑色をしているが、秋には赤くなる。 【花期・結実期】花期は 9～10 月。 【分布】国内:本州(宮城県以南)～琉球。県内:赤穂市、相生市、たつの市、姫路市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		植林地、塩沼地植生、市街地等(河岸の草地)の 6 地点で、85 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、1 地点 40 個体は工事の実施区域周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、1 地点 40 個体は都市計画対象道路周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(40)　重要な種の予測結果

項目		種名　ツルナ		科名　ハマミズナ科		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地に生える肉質の多年草。 【大きさ・形態】茎や葉の表面に粒状の突起がある。茎はよく分枝し、下部は横に這い、上部は斜上し、高さ 40～60cm。葉は互生し、ひし形をおびた卵状三角形で長さ 4～6cm。 【花期・結実期】花期は 4～11 月。花は 1～2 個、葉腋につく。 【分布】国内:北海道西南部～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		常緑広葉樹二次林、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 9 地点で、78 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(41)　重要な種の予測結果

項目		種名　リンドウ		科名　リンドウ科		
一般生態		【生育環境・生態】山や野に生える多年草。 【大きさ・形態】茎は高さ 20～100cm、直立または斜上する。葉は対生して、卵状披針形、3 脈が著しく目立ち、長さ 3～8cm。細長い葉には目立つ 3 本のすじがある。 【花期・結実期】花期は 9～11 月。秋に紫色の 4cm ほどの花を数個つける。 【分布】国内:本州～九州、奄美諸島。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		常緑広葉樹二次林の 2 地点で、4 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(42)　重要な種の予測結果

項目		種名　ケテイカカズラ		科名　キョウチクトウ科		
一般生態		【生育環境・生態】常緑籐本。 【大きさ・形態】葉は長楕円形～楕円形、長さ 4～8cm。若枝、花序、葉裏には毛が多い。花は白色。 【花期・結実期】花期は 5～6 月頃。 【分布】国内:本州(近畿以西)、四国、九州、沖縄。県内:佐用町、たつの市、姫路市、高砂市、三田市、神戸市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　調	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、竹林、耕作地、市街地等(緑地・公園等)の 21 地点で、239 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 21 地点 239 個体のうち 1 地点 10 個体は工事の実施区域に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、2 地点 15 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種の確認地点 21 地点 239 個体のうち 1 地点 10 個体は都市計画対象道路に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、2 地点 15 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(43)　重要な種の予測結果

項目		種名　コカモメヅル		科名　キョウチクトウ科		
一般生態		【生育環境・生態】山野の草原に生えるつる性の多年草。 【大きさ・形態】茎は細くて長く伸びる。葉は対生し、三角状の卵形から卵状披針形で、先はとがり、長さ 3～6(～8)cm になり、幅 1～3cm、基部は浅心形で 3～25mm の葉柄があり、中肋上に微毛があるほかは無毛。花序はよく分枝し、大きくまばらに散開してふつうそのつけ根の葉よりも長い。小花柄は細く 4～10mm。花は小さく径 4～5mm で暗紫色、花冠裂片の上面にはやや微毛がある。副花冠は短く直立し基部は多少張り出す。 【花期・結実期】花期は 7～8 月。 【分布】国内:本州、四国、九州。県内:神戸市、宝塚市、三田市、猪名川町、三木市、加西市、姫路市、福崎町、神河町、相生市、宍粟市、たつの市、佐用町、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		落葉広葉樹二次林、その他草地群落の 2 地点で、8 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(44)　重要な種の予測結果

項目		種名　スズサイコ		科名　キョウチクトウ科		
一般生態		【生育環境・生態】農耕地や日当たりの良い乾いた草地に生える多年草。 【大きさ・形態】高さ 40～100cm で細長い葉をつける。 【花期・結実期】花期は 7～8 月。夏にうす茶色の花をつけ、夜に開き、日が当たると閉じる。秋に細長い袋のような実をつける。 【分布】国内:北海道～九州。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　A		
確認状況		常緑広葉樹二次林(林縁の草地)の 4 地点で、5 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(45)　重要な種の予測結果

項目		種名　**イヌノフグリ**		科名　**オオバコ科**		
一般生態		【生育環境・生態】土手や道端等の草原に生える越年草。 【大きさ・形態】茎は下部で分枝して地にひろがり、長さ 10～25cm、毛が散生する。葉は茎の下部では対生、上部では互生し、数対の先の鈍い鋸歯がある。花冠は淡紅白色で紅紫色の条があり、径 3～4mm。 【花期・結実期】3～4 月、茎の上部の葉腋ごとに 1 花をつける。 【分布】国内:本州、四国、九州、琉球諸島。県内:神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、明石市、加古川市、高砂市、三木市、姫路市、赤穂市、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		市街地等(住宅付近の草地)の 1 地点で、1 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(46)　重要な種の予測結果

項目		種名　**カワヂシャ**		科名　**オオバコ科**		
一般生態		【生育環境・生態】川岸、溝のふちや田に生える越年草。 【大きさ・形態】茎は直立または斜上して高さ 10～50cm になり、葉とともに無毛である。 【花期・結実期】花期は 5～6 月、葉腋に長さ 5～15cm の細い花序を出し、15～50 個の花をつける。 【分布】国内:本州(中部以西)、四国、九州、沖縄。県内:豊岡市、佐用町、上郡町、赤穂市、たつの市、姫路市、西脇市、加東市、小野市、高砂市、加古川市、明石市、丹波市、神戸市、猪名川町、伊丹市、西宮市、尼崎市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　調		
確認状況		常緑広葉樹二次林、耕作地(水田)、市街地等(水路付近の草地)の 27 地点で、1,441 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 27 地点 1,441 個体のうち 1 地点 5 個体は工事の実施区域に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、1 地点 50 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種の確認地点 27 地点 1,441 個体のうち 1 地点 5 個体は都市計画対象道路に分布し、直接改変により一部の生育地が消失・縮小します。 一方、1 地点 50 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(47)　重要な種の予測結果

項目		種名　ミゾコウジュ		科名　シソ科		
一般生態		【生育環境・生態】ロゼット葉のある越年草。湿った草原や畦に生える。 【大きさ・形態】葉は長楕円形で根出葉は長い柄があり、花時には枯れる。茎は高さ 30～70cm、4 角形で直立し、下向きの細毛がある。茎葉は短い柄があり、長さ 3～6cm になり、幅 1～2cm で、縁は鈍い鋸歯があり、脈は凹入して葉面は細かいしわがあり、細毛がある。 【花期・結実期】花は 5～6 月に開き、花穂ははじめ短いが、のちに長く伸びて 8～10cm となる。萼は長さ 2.5～3mm、唇形で、花が終わると左右に口を閉じるが、果時には長さ約 4mm となってまた開く。 【分布】国内:本州、四国、九州、琉球諸島。県内:尼崎市、芦屋市、三田市、猪名川町、加古川市、三木市、小野市、加西市、加東市、姫路市、赤穂市、たつの市、上郡町、佐用町、朝来市、淡路市。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		市街地等(住宅地付近の草地)の 1 地点で、1,000 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(48)　重要な種の予測結果

項目		種名　ハマゴウ		科名　シソ科		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂浜に群生する落葉小低木。 【大きさ・形態】茎は砂中を長く這い、枝は 4 稜あって直立または斜上し、高さ 30～70cm。花冠は漏斗状、やや唇形で長さ 12～16mm、淡青紫色で外面に白短毛がある。 【花期・結実期】花期は 7～9 月。 【分布】国内:本州、四国、九州、琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		砂丘植生、市街地等(海岸付近の草地)の 13 地点で、2,095 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、3 地点 100 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、3 地点 100 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(49)　重要な種の予測結果

項目		種名　**イヌタヌキモ**		科名　**タヌキモ科**		
一般生態		【生育環境・生態】ため池や湖沼に生える浮遊性の多年草。 【大きさ・形態】茎は分枝し、葉は互生につく。葉は基部から2個の小葉に分かれ、それぞれ羽状に分枝し、さらに数回分枝する。越冬芽は秋に葉の腋に生じる軸の先端に主につき、楕円球形、構成する葉は中軸が不明瞭で 2 叉分枝状で各裂片が密着する。裂片は糸状で、縁と先端に小刺毛がつく。花茎は高さ10～30cm。 【花期・結実期】花期は6～9月。 【分布】国内:北海道～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		湿地・河川・池沼植生、市街地等の 3 地点で、100 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(50)　重要な種の予測結果

項目		種名　**クマツヅラ**		科名　**クマツヅラ科**		
一般生態		【生育環境・生態】野原や山地などに生える多年草。 【大きさ・形態】30～80cm。葉は羽状に切れ込み、こまかい毛が生える。穂状花序に淡紅紫色で径約 4mm の花を多数つける。花冠は 5 裂して平らに開き、萼は筒状で長さ約 2mm。 【花期・結実期】花期は6～9月。 【分布】国内:本州、四国、九州、沖縄。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		その他草地群落(クズ群落)、市街地等の 3 地点で、106 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種の確認地点 3 地点 106 個体のうち、1 地点 100 個体が工事の実施区域に分布し、直接改変により大部分の生育地が消失・縮小します。 一方、工事の実施区域周辺には確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種の確認地点 3 地点 106 個体のうち、1 地点 100 個体が都市計画対象道路に分布し、直接改変により大部分の生育地が消失・縮小します。 一方、都市計画対象道路周辺には確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、直接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(51)　重要な種の予測結果

項目		種名　**キキョウ**		科名　**キキョウ科**		
一般生態		【生育環境・生態】山野の草地に生える多年草。 【大きさ・形態】太い根茎は深く地中に入り、茎は高さ 50～100cm。葉は狭卵形で長さ 4～7cm。花冠は径 4～5cm、青紫色であるが、淡紫色や白色のものもある。 【花期・結実期】花は 7～8 月、茎頂近くに数個つく。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州、琉球(請島)。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林、その他草地群落の 7 地点で、60 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(52)　重要な種の予測結果

項目		種名　**フクド**		科名　**キク科**		
一般生態		【生育環境・生態】河口の塩湿地に生え、満潮時は全体が海水中につかることがある。 【大きさ・形態】根出葉は短い主軸の先にあって長さ 14～21cm、葉身は扇状で 2～3 回掌状に深裂し、裂片は線形で円頭、幅約 2mm、厚い。主軸には花をつけず、側枝が高さ 30～50cm になり、帯紫色をなし、円錐花序に多数の花をつける。茎葉は長柄があり、葉身は羽状深裂し、上部の葉は小さく、3 中裂するかまたは線形。頭花は短い倒円錐形で長さ 3～5mm、幅 5～7mm。 【花期・結実期】花は 9～10 月。花が咲くと枯れる。全体に強いメロンの香りがある。 【分布】国内:本州(近畿以西)、四国、九州。県内:姫路市、相生市、赤穂市、たつの市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　NT		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　B	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		植林地、塩沼地植生、湿地・河川・池沼植生の 3 地点で、64 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、2 地点 60 個体は工事の実施区域周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 一方、2 地点 60 個体は都市計画対象道路周辺に分布し、影響を受ける個体の割合が高いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は大きいと考えられます。 以上のことから、間接的な影響により、本種の生育環境は保全されない可能性があると予測されます。				A

表 11.9-12(53)　重要な種の予測結果

項目		種名　**オケラ**		科名　**キク科**		
一般生態		【生育環境・生態】やや乾いた草原に生える。 【大きさ・形態】地下茎は長さ 5～8cm になり、多数の丈夫な根があり、大きな褐色の芽がつく。茎の高さ 30～100cm になり、堅くて上部で分枝し、枝の先に頭花をつける。花は白色または淡紅色。 【花期・結実期】花期は 9～10 月。 【分布】国内:本州～九州。県内:新温泉町、香美町、豊岡市、養父市、相生市、たつの市、姫路市、西脇市、加西市、加東市、三木市、高砂市、加古川市、丹波市、三田市、神戸市、宝塚市、芦屋市、西宮市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　C	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		常緑広葉樹二次林、常緑針葉樹二次林の 2 地点で、15 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(54)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ノジギク**		科名　**キク科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の近くの崖に生える多年草。 【大きさ・形態】地下茎を伸ばして増える。茎の基部は倒れ、上部は斜上して多く分枝する。舌状花は白色、後に淡紅色となる。まれに淡黄色のものもある。 【花期・結実期】花期は 10～12 月。 【分布】国内:本州(兵庫以西)、四国、九州。県内:赤穂市、たつの市、姫路市、高砂市、明石市、神戸市、淡路市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C	Ⅴ神戸版RL2020　A	Ⅵ明石市RL2019　－		
確認状況		常緑広葉樹二次林、低木群落、その他草地群落、市街地等の 15 地点で、2,230 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、5 地点 250 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、5 地点 250 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(55)　重要な種の予測結果

項目		種名　**オグルマ**		科名　**キク科**		
一般生態		【生育環境・生態】湿地や田の縁等に生える多年草。 【大きさ・形態】茎は高さ 20～60cm、根出葉や茎の下部の葉は花時に枯れている。茎葉は広披針形から長楕円形で鋭頭、基部はなかば茎を抱き、長さ 5～10cm になる。頭花は黄色、径 3～4cm。 【花期・結実期】7～10 月、茎の先に数個の頭花を開く。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:神戸市、川西市、猪名川町、明石市、三木市、加西市、加東市、姫路市、たつの市、佐用町、豊岡市、養父市、朝来市、丹波篠山市、丹波市、洲本市、南あわじ市、淡路市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－		Ⅱ種の保存法　－		Ⅲ環境省第5次RL　－
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　C		Ⅴ神戸版RL2020　B		Ⅵ明石市RL2019　A
確認状況		耕作地の 2 地点で、130 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(56)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ウラギク**		科名　**キク科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の湿地に群生する越年草。 【大きさ・形態】茎は高さ 25～55cm になり、無毛。葉は披針形、長さ 6.5～10cm、肉質で無毛。 【花期・結実期】花期は 8～11 月。 【分布】国内:北海道(東部)、本州(関東以西の太平洋側)、四国、九州。県内:赤穂市、相生市、たつの市、姫路市、高砂市、加古川市、西宮市、淡路市、洲本市、南あわじ市。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－		Ⅱ種の保存法　－		Ⅲ環境省第5次RL　NT
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　A		Ⅴ神戸版RL2020　－		Ⅵ明石市RL2019　－
確認状況		市街地等(河川敷の草地)の 6 地点で、287 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。				C

表 11.9-12(57)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ハマウド**		科名　**セリ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸に生える多年草。 【大きさ・形態】茎は高さ 1～1.5m。葉は 1～2 回 3 出羽状複葉で、光沢がある。花は白色。 【花期・結実期】花期は 4～6 月。 【分布】国内：本州(関東以西)～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　調		
確認状況		常緑広葉樹二次林、市街地等(河川敷の草地)の 10 地点で、17 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 3 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、1 地点 3 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(58)　重要な種の予測結果

項目		種名　**ハマボウフウ**		科名　**セリ科**		
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地に生える多年草。 【大きさ・形態】茎は多毛で、多少枝を分け、高さ 5～40cm、まれに 1m にもなる。葉は厚く、小葉や裂片は広くて先は円く、鋸歯があり、長さ 2～5cm、幅は 1～3cm。花弁は白色。 【花期・結実期】花期は 6～7 月。密な複散形花序をなす。 【分布】国内：北海道～琉球。				
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－		
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　B	Ⅵ明石市RL2019　B		
確認状況		砂丘植生、湿地・河川・池沼植生、市街地等の 12 地点で、364 個体を確認しました。				
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、2 地点 35 個体は工事の実施区域周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、2 地点 35 個体は都市計画対象道路周辺に分布しますが、影響を受ける個体の割合が低いことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化による影響は小さいと考えられます。 以上のことから、本種の生育環境は保全されると予測されます。				B

表 11.9-12(59)　重要な種の予測結果

項目		種名　**オミナエシ**		科名　**スイカズラ科**	
一般生態		【生育環境・生態】日当たりのよい山の草地に生える多年草。 【大きさ・形態】茎は高さ 60～100cm。葉は対生し、頭大羽状に深裂する。 【花期・結実期】花期は 8～10 月。多数の黄色の小花をつけ、かすかに悪臭がある。花序の上部は平らになる。 【分布】国内：北海道～九州。			
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ種の保存法　－	Ⅲ環境省第5次RL　－	
		Ⅳ兵庫県版 RDB2020　－	Ⅴ神戸版RL2020　－	Ⅵ明石市RL2019　B	
確認状況		常緑広葉樹二次林、落葉広葉樹二次林の 2 地点で、5 個体を確認しました。			
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本種は工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C
	道路の存在	本種は都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本種の生育環境に変化は生じないと予測されます。			C

② 重要な群落

重要な群落の予測結果は、表 11.9-13 に示すとおりです。

表 11.9-13(1)　重要な群落の予測結果

項目		重要な植物群落名称　**アサザ群落**	所在地　**稲美町六分一・天満大池**	
一般生態		【生育環境・生態】池や沼に生える多年生の水草であるアサザの群落。 【大きさ・形態】根茎は泥の中を長く這い、それから太く長い茎を出す。葉は卵形または円形で径5～10cm になる。表面は緑色、裏面は紫褐色。 【花期・結実期】花期は 6～8 月、黄色で 5 深裂し、裂片の先はへこみ、縁に長い毛がある。 【分布】国内:北海道、本州、四国、九州。県内:東播、丹波、摂津、淡路。		
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ第 2・3・5 回自然環境保全基礎調査　－	
		Ⅲ兵庫県版 RDB2020(植物・植物群落)　A	Ⅳ植物群落 RDB　－	
確認状況		現地調査の結果、既存資料で示された範囲のうち、天満大池でアサザ群落を確認しましたが、河原山池では確認されませんでした。		
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本群落は、既存資料調査で分布が確認されたため、現地調査を行った結果、工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも同様に確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C
	道路の存在	本群落は、既存資料調査で分布が確認されたため、現地調査を行った結果、都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも同様に確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C

表 11.9-13(2)　重要な群落の予測結果

項目		重要な植物群落名称　**海浜植物群落**	所在地　**姫路市大塩町・姫路シーサイドゴルフ場南の海岸**	
一般生態		【生育環境・生態】海岸の砂地や岩場に生育する植物群落。海浜植物は、内陸の土壌に比べて栄養分が乏しいなどの厳しい環境に適応する力をもっている。 根が長く深く、茎は低く地を這い、地下茎になるものが多くある。比較的草丈が低く、その割に花が大きいものが多く、葉は厚くて光沢があり、しばしば多肉質となるか毛で覆われている。大部分が多年草で、地下茎で分布を広げている。		
選定基準		Ⅰ文化財保護法　－	Ⅱ第 2・3・5 回自然環境保全基礎調査　－	
		Ⅲ兵庫県版 RDB2020(植物・植物群落)　C	Ⅳ植物群落 RDB　－	
確認状況		現地調査の結果、既存資料で示された範囲では海浜植物群落は確認されませんでした。		
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本群落は、既存資料調査で分布が確認されたため、現地調査を行った結果、工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも同様に確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C
	道路の存在	本群落は、既存資料調査で分布が確認されたため、現地調査を行った結果、都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも同様に確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C

表 11.9-13(3)　重要な群落の予測結果

項目		重要な植物群落名称　**的形のノジギク群落**	所在地　ー	
一般生態		【生育環境・生態】海岸の近くの崖に生える多年草であるノジギクの群落。 【大きさ・形態】地下茎を伸ばして増える。茎の基部は倒れ、上部は斜上して多く分枝する。舌状花は白色、後に淡紅色となる。まれに淡黄色のものもある。 【花期・結実期】花期は 10～12 月。 【分布】国内:本州(兵庫以西)、四国、九州。県内:赤穂市、たつの市、姫路市、高砂市、明石市、神戸市、淡路市、洲本市、南あわじ市。		
選定基準		Ⅰ文化財保護法　ー	Ⅱ第 2・3・5 回自然環境保全基礎調査　C	
		Ⅲ兵庫県版 RDB2020(植物・植物群落)　ー	Ⅳ植物群落 RDB　ー	
確認状況		現地調査の結果、既存資料に示された範囲ではノジギク群落は確認されませんでした。		
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本群落は、既存資料調査で調査地域に分布が確認されたことから、現地調査を行った結果、工事の実施区域では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも同様に確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C
	道路の存在	本群落は、既存資料調査で調査地域に分布が確認されたことから、現地調査を行った結果、都市計画対象道路では確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも同様に確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C

表 11.9-13(4)　重要な群落の予測結果

項目		重要な植物群落名称　**大塩・的形の海岸植生**	所在地　**姫路市大塩町、的形町、木場**	
一般生態		【生育環境・生態】水域と陸域の境界である海岸に生える植物の群落。海から供給される砂や塩分の影響と、そこに定着する植物の耐性のバランスによって独特の海浜植生が成立する。波、風、温度、水分、塩分、砂の移動などに支配されている。これらの影響は一般に波打ち際が強く奥地にいくにつれて弱くなり、全体として奥地ほど環境が安定する。植生はこの環境に対応して沿岸から 1 年草群落、多年草群落、低木群落、そして高木群落へと発達する。 砂浜・前浜干潟、岩礁、塩田跡等多様な地形を内包し、市東部に残された自然海浜群落として貴重。		
選定基準		Ⅰ文化財保護法　ー	Ⅱ第 2・3・5 回自然環境保全基礎調査　ー	
		Ⅲ兵庫県版 RDB2020(植物・植物群落)　B	Ⅳ植物群落 RDB　ー	
確認状況		現地調査の結果、既存資料に示された範囲に海岸植生(ハマゴウ、ハマボウフウ、コウボウシバ等)を確認しました。		
影響予測	工事施工ヤード及び工事用道路等の設置	本群落は、既存資料調査及び現地調査の結果、工事の実施区域には確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C
	道路の存在	本群落は、既存資料調査及び現地調査の結果、都市計画対象道路には確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。 また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。 以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。		C

表 11.9-13(5)　重要な群落の予測結果

<table>
<tr><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">重要な植物群落名称　**塩沼地植物群落**</td><td>所在地　**姫路市飾磨区中島・市川河口**</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般生態</td><td colspan="3">【生育環境・生態】植物体中の塩分濃度を高くして、海水に浸っても生きていける塩生植物の群落。わが国では砂州で囲まれた波の静かな海岸沿いの塩沼地(塩湿地)に生育する。塩沼地だけでなく、干拓地や塩田跡地の塩だまりにもみられる。しかし現在では、このような場所が少なくなっている。本州各地にはハママツナ、ホソバノハマアカザなどが分布する。また、ハマサジ(本州中部以南)、フクド(紀伊半島以西)なども塩生植物の代表的なものである。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">選定基準</td><td>Ⅰ文化財保護法　－</td><td>Ⅱ第2･3･5回自然環境保全基礎調査　－</td></tr>
<tr><td>Ⅲ兵庫県版 RDB2020(植物・植物群落)　A</td><td>Ⅳ植物群落 RDB　－</td></tr>
<tr><td colspan="2">確認状況</td><td colspan="3">現地調査の結果、既存資料に示された範囲に塩沼地植物群落(シオクグ等)を確認しました。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">影響予測</td><td>工事施工ヤード及び工事用道路等の設置</td><td>本群落は、既存資料調査及び現地調査の結果、工事の実施区域には確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。
また、工事の実施区域周辺にも確認されていないことから、工事の実施による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。
以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。</td><td>C</td></tr>
<tr><td>道路の存在</td><td>本群落は、既存資料調査及び現地調査の結果、都市計画対象道路には確認されていないことから、生育地は消失・縮小しません。
また、都市計画対象道路周辺にも確認されていないことから、道路の存在による光環境や水環境の変化に伴う、生育環境の質的変化は生じません。
以上のことから、本群落の生育環境に変化は生じないと予測されます。</td><td>C</td></tr>
</table>

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測の結果、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在により、生育地が消失・縮小するクゲヌマラン、コクラン、ゴキヅル、ケテイカカズラ、カワヂシャ、クマツヅラ、生育環境の質的変化による影響が大きいと考えられるハンゲショウ、イトモ、ハママツナ、フクドについては「生育環境は保全されない可能性がある」と予測されました。

このことから、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在による植物への環境影響について、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行いました。

検討の結果、「重要な植物種の移植又は播種」、「濁水処理施設の設置」及び「作業者に対する環境配慮の指導」を採用します。検討した環境保全措置は、表 11.9-14 に示すとおりです。

表 11.9-14　環境保全措置の検討

環境保全措置	環境保全措置の効果	実施の適否	適否の理由
重要な植物種の移植又は播種(代償措置)	一般生態、分布状況等から影響を回避又は低減することが困難な種について、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、都市計画対象道路（工事の実施区域）及びその周辺に生育する種への影響を代償できます。	適	都市計画対象道路（工事の実施区域）及びその周辺に生育する種への影響の代償が見込まれることから、本措置を実施します。
濁水処理施設の設置	濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守することで、汚濁負荷量の低下が確実に見込め、河川・水路等の水域や湿地の植物の生育環境への影響を低減できます。	適	水域や湿地の植物の生育環境への影響の低減が見込まれることから、本措置を実施します。
作業者に対する環境配慮の指導	環境配慮の方針や方法を説明し、作業者に徹底させることにより、工事中の生育環境への影響を回避又は低減できます。	適	生育環境への影響の回避又は低減が見込まれることから、本措置を実施します。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置として採用した「重要な植物種の移植又は播種」、「濁水処理施設の設置」及び「作業者に対する環境配慮の指導」の実施内容及び効果等について整理した結果は、表 11.9-15 に示すとおりです。

表 11.9-15(1)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	重要な植物種の移植又は播種(代償措置)
	位置	保全対象生育地近傍(専門家等の意見を聞き決定)
保全対象		都市計画対象道路(工事の実施区域)に生育するクゲヌマラン、コクラン、ゴキヅル、ケテイカカズラ、カワヂシャ、クマツヅラ及び都市計画対象道路(工事の実施区域)周辺に生育するハンゲショウ、イトモ、ハママツナ、フクド
環境保全措置の効果		一般生態、分布状況等から影響を回避又は低減することが困難な種について、適切な場所に対象種の移植又は播種を行うことにより、都市計画対象道路(工事の実施区域)及びその周辺に生育する種への影響を代償できます。
効果の不確実性		活着の程度に不確実性があります。
他の環境への影響		なし

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、専門家等の意見や最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.9-15(2)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	濁水処理施設の設置
	位置	保全対象生育地周辺の工事の実施区域
保全対象		工事の実施による濁水流入等の水環境の変化に伴う生育環境の質的変化による影響の程度が大きいと考えられるハンゲショウ、イトモ、ハママツナ、フクド
環境保全措置の効果		濁水処理施設からの放流水は、排水基準を遵守することで、汚濁負荷量の低下が確実に見込め、河川・水路等の水域や湿地の植物の生育環境への影響を低減できます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		水質、動物、生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.9-15(3)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	作業者に対する環境配慮の指導
	位置	工事の実施区域
環境保全措置の効果		環境配慮の方針や方法を説明し、作業者に徹底させることにより、工事中の生育環境への影響を回避又は低減できます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		動物、生態系への影響が低減されます。

注）環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

(4) 事後調査

① 事後調査の検討

予測は、重要な種の生育に及ぼす影響の程度を生態学的な知見や類似事例を参考に行っていることから、不確実性は小さいと考えられますが、環境保全措置(重要な植物種の移植又は播種)については、移植又は播種後の植物の活着に関する基礎データが不十分であり、その効果には不確実性が残ることから、表 11.9-16 に示すとおり、事後調査を実施します。

なお、事後調査の実施時期及び実施方法等の詳細については、事業実施段階において、専門家等の指導及び助言を踏まえて検討します。

表 11.9-16 事後調査の内容

調査項目	調査内容
移植又は播種した植物の生育状況 (クゲヌマラン、コクラン、ゴキヅル、ケテイカカズラ、カワヂシャ、クマツヅラ、ハンゲショウ、イトモ、ハママツナ、フクド)	・調査時期 各種の生活史及び生育特性等に応じて設定 ・調査地域 移植又は播種を講じた植物の生育地 ・調査方法 移植又は播種を講じた植物の生育状況(株数、形状・生育高、開花・結実状況等)、並びに生育環境の状況確認

② 環境影響の程度が著しいことが明らかになった場合の対応の方針

事後調査の結果、事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、事業者が関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて追加調査等を行い、適切な措置を講じます。

③ 事後調査結果の公表の方法

事後調査結果の公表等については、原則として事業者が行いますが、公表時期及び方法については、関係機関と連携し、適切に行います。

4) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る植物に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価しました。

(2) 評価結果

① 回避又は低減に係る評価

都市計画対象道路は、道路の計画段階において、重要な種・群落の生育地をできる限り回避した計画としています。また、工事施工ヤードは都市計画対象道路上、工事用道路は既存道路を極力利用して、工事の実施による土地の改変を最小限に抑えた計画とすることを想定しており、環境負荷の回避・低減が図られています。

加えて、環境保全措置として表 11.9-15 に示す「重要な植物種の移植又は播種」を講じるほか、「濁水処理施設の設置」及び「作業者に対する環境配慮の指導」を実施し、環境負荷の低減を図ります。

また、「重要な植物種の移植又は播種」については、移植又は播種後の植物の活着に関する基礎データが不十分であり、その効果には不確実性が残ることから、事後調査を実施し、事前に予測し得ない環境上の著しい影響が生じた場合は、関係機関と協議し、専門家等の意見及び指導を得ながら、必要に応じて適切な措置を講じることとしています。

これらのことから、工事施工ヤード及び工事用道路等の設置、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る植物への影響は、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。